

## 第1章 三股町の現況

### 1. 町の概況・人口

#### 1.1 位置と地勢

- ・ 県内第2位の人口規模である都城市に隣接し同一の生活圏を形成している。
- ・ 道路ネットワークの形成により、アクセス性に恵まれた立地である。

本町は、宮崎県南西部に位置し、県内第2位の人口規模を誇る16万人都市の都城市に隣接しています。平成の大合併で周辺自治体が広域な都市へと姿を変えていくなか、本町は自主自立の道を選択し、コンパクトなまとまりを持つまちの姿を維持しています。

面積は110.02k㎡で、約70%が鱈塚山系の森林に囲まれています。まちの中央を東から西に流れる沖水川により河岸段丘や扇状地が形成され、そこに開けた平野に田畑や住宅地が広がっています。市街化が進むまちの西部は、都城市の市街地と連なっており、都城盆地として同一の生活圏が形成されていることを物語っています。

交通インフラとしては、JR日豊本線がまちの中心を貫き、三股駅・餅原駅の2駅を有しています。また、宮崎自動車の都城ICや山之口SICが近いことから、県央・県北だけでなく、九州主要都市へのアクセス性にも恵まれています。さらに、国県道等の一般道の整備も進んでおり、宮崎空港や宮崎港、油津港、志布志港などの物流拠点まで所要時間約1時間という道路ネットワークが形成されています。今後、都城志布志道路や東九州自動車の整備促進により、その交通利便性はますます高まることが期待されます。

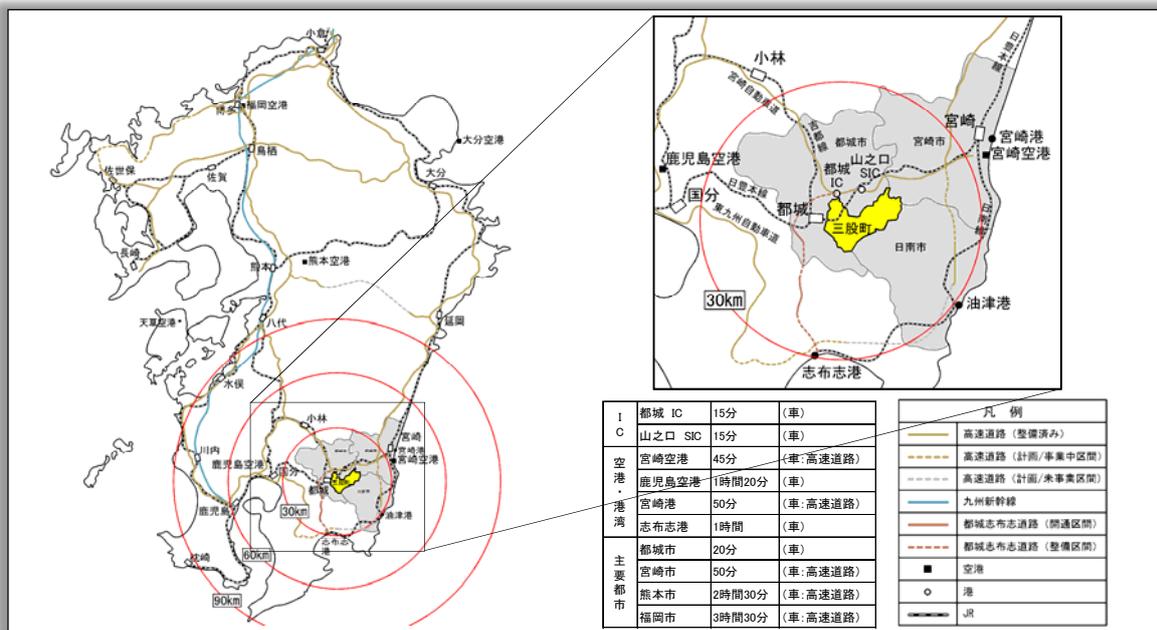


図-1-1 三股町の位置



## 1.2 人口等の推移

- ・人口は増加傾向が続いており、町の西側地域での人口の増加傾向が強い。
- ・まちの中心部と都城市に隣接する西部における人口密度が高い。
- ・自然動態、社会動態ともに増加傾向が続いている。

### (1) 人口の推移

本町の人口は、平成22年24,800人、平成27年で25,404人（国勢調査結果）であり、宮崎県内でも珍しく、増加傾向が続いています。一方、世帯数は人口よりも増加傾向が強く、世帯人員は減少している傾向にあります。

人口の推移を都市計画区域・用途地域内外で確認すると、用途地域内は一貫して人口の増加が続いています。一方、用途地域外（都市計画区域内）は、平成17年まで人口が増加していたものの、平成17年から平成22年は減少に転じています。また、都市計画区域外は、平成12年から減少傾向に転じている状況です。

表-1-1 人口・世帯数の推移

(単位:人,世帯,人/世帯)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口	18,832	21,011	22,941	24,056	24,545	24,800	25,404
世帯数	5,911	6,837	7,988	8,565	9,061	9,503	9,967
世帯人員	3.2	3.1	2.9	2.8	2.7	2.6	2.5

出典:国勢調査

表-1-2 人口(都市計画区域・用途地域内外)の推移

(単位:人,%)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	増減率 (H12→H22)
行政区域	18,832	21,011	22,941	24,056	24,545	24,800	3.1
都市計画区域	17,439	19,431	20,617	21,703	23,003	23,350	7.6
用途地域指定区域	11,819	12,927	13,697	14,193	14,404	15,741	10.9
用途地域指定外区域	5,620	6,504	6,920	7,510	8,599	7,609	1.3
都市計画区域外	1,393	1,580	2,324	2,353	1,542	1,450	-38.4

出典:宮崎県都市計画基礎調査調査書 都城広域都市計画区域(三股町)

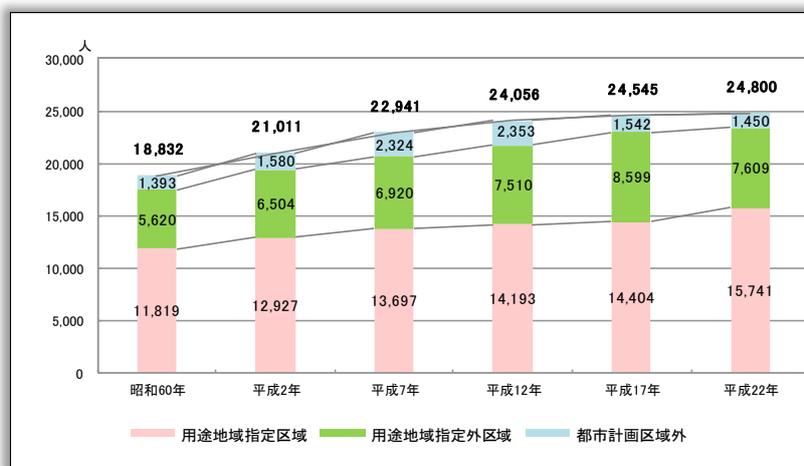


図-1-2 人口の推移

地域毎における過去20年間の人口の増減（H9→H29）を確認すると（本頁の上図）、特に町の西側地域（蓼池・前目・三原、今市・花見原・中原・下新・稗田・西植木・東植木）において増加人数が多い他、町の中心地である仲町でも増加人数が多くなっています。

また、本頁の下図に示す増減率を確認すると、増減率が高いのが西部にある中原や北部の三原である一方で、町東部の大八重・大野・仮屋では減少傾向にあることが確認できます。

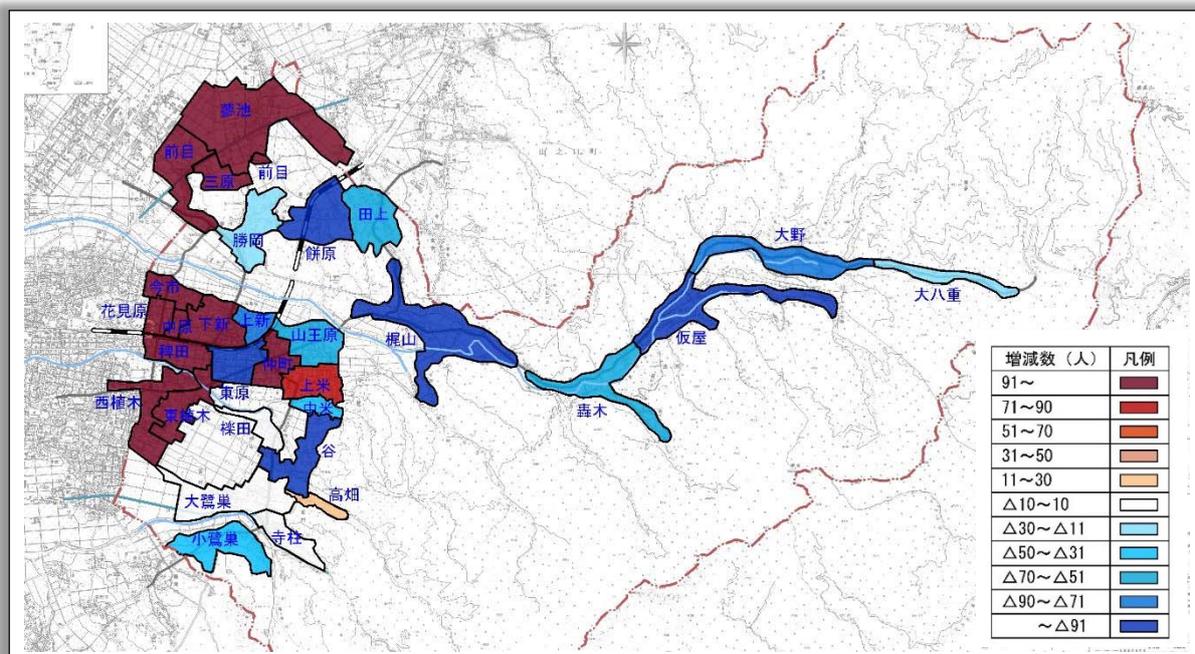


図-1-3 人口増減数(H9→H29)

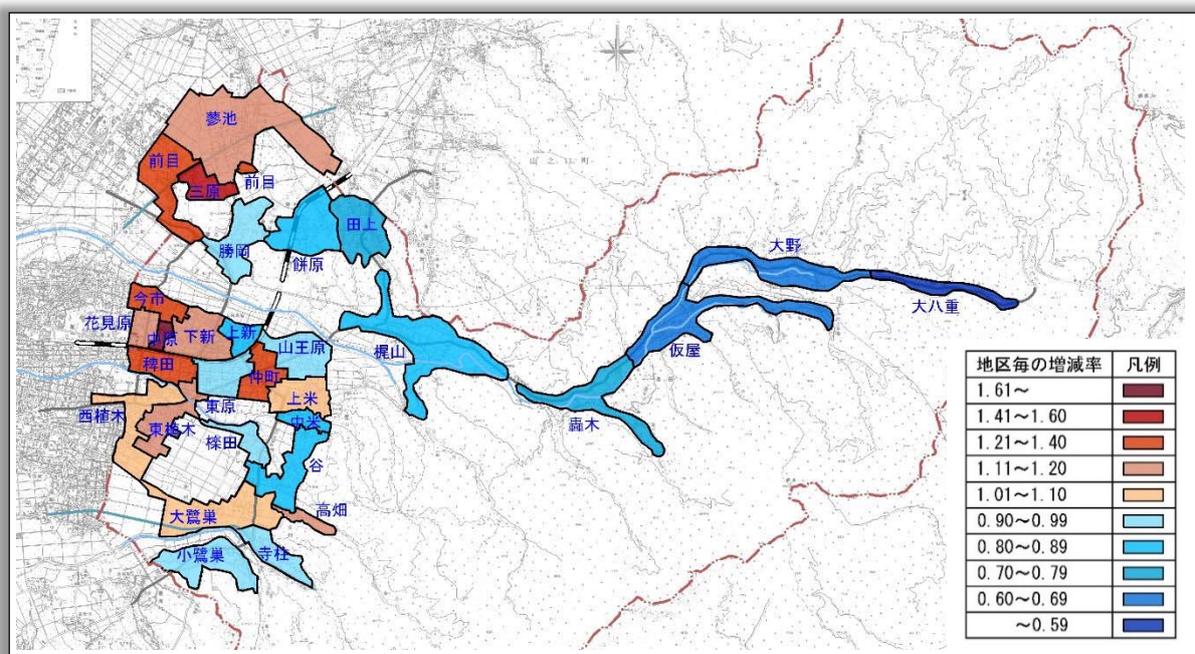


図-1-4 人口増減率(H9→H29)

(2) 人口密度

人口密度については、用途地域内の人口密度が年々増加しているのに対して、用途地域外（都市計画区域内）はほぼ横ばいであることから、概ね用途地域内への人口集積が進展しているといえます。

図-1-6 で人口密度の状況を確認すると、特に町の西側の住居系用途地域での人口の集積がみられます。その一方で、用途地域外においても開発行為によって一定の人口集積がみられる状況が確認できます。

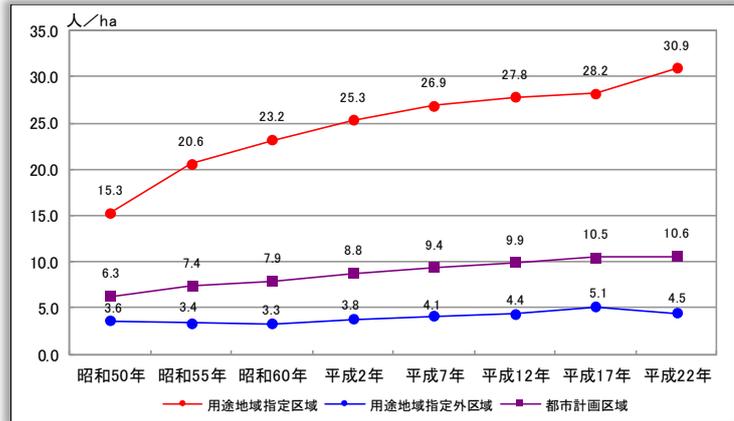


図-1-5 人口密度の推移

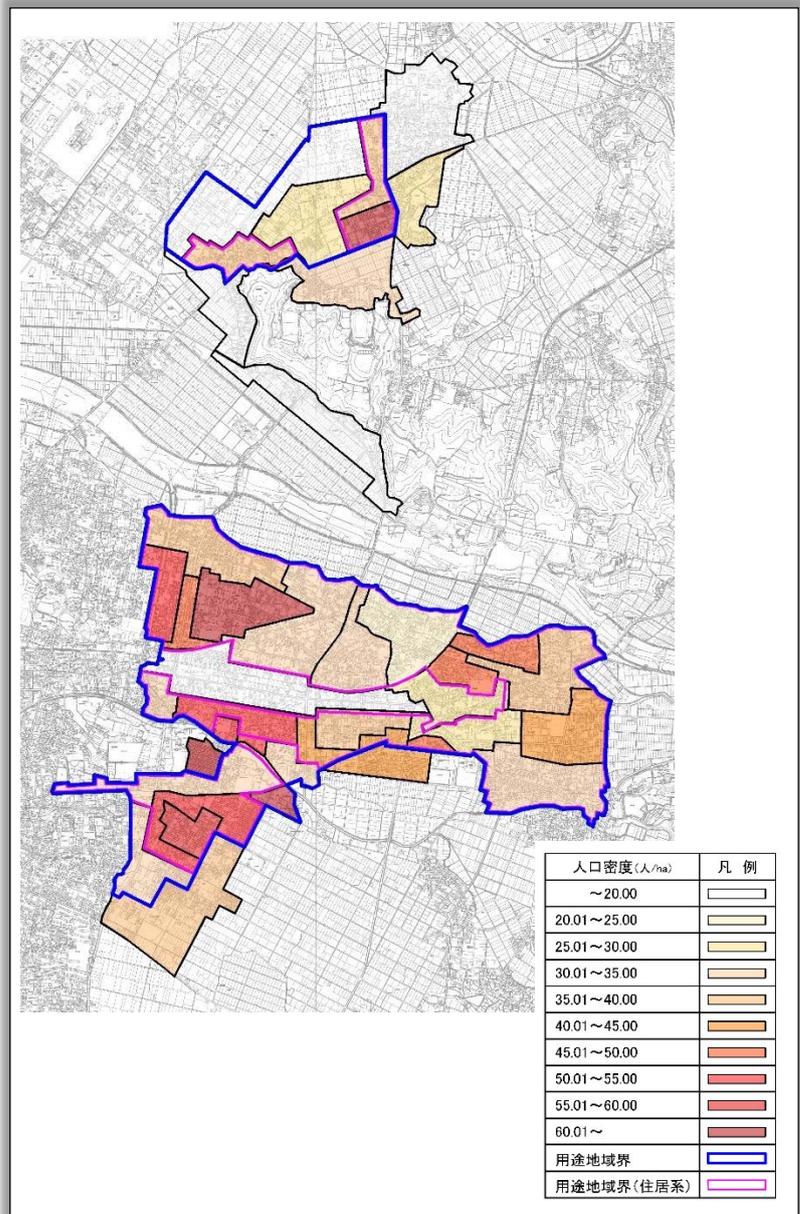


図-1-6 人口密度の現況図

(3) 人口動態（自然・社会増減）

住民基本台帳に基づく出生数は昭和55年(1980年)以降で見ると、平成15年(2003年)から平成20年(2008年)にかけて減少しましたが、平成21年(2009年)以降は回復し、年間約260人程度とほぼ横ばいで推移しています。また、同じ時期の死亡数は、年間約130人で推移していましたが、近年は約240人へ増加しており、自然増減としては、年によってマイナスはあるものの自然増で推移してきました。

社会動態については、昭和55年(1980年)以降、転入が転出を上回っており、社会増の傾向になっています。

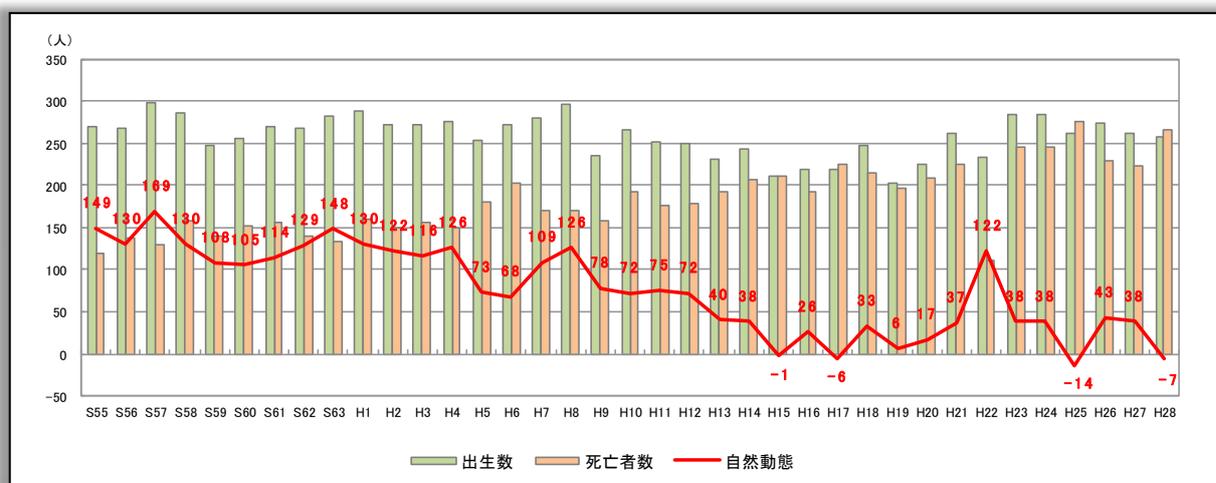


図-1-7 自然動態の推移

出典:住民基本台帳

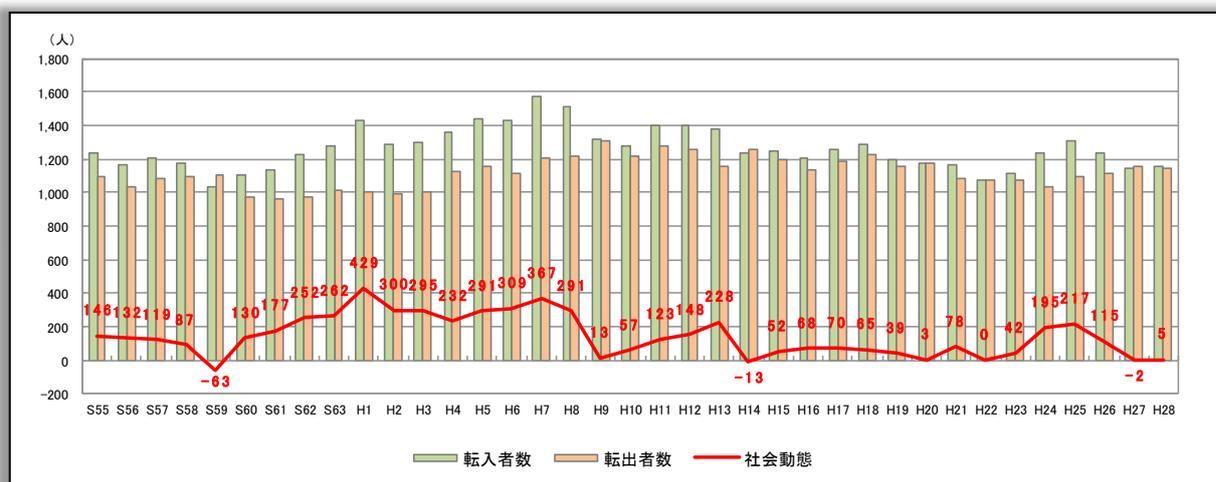


図-1-8 社会動態の推移

出典:住民基本台帳



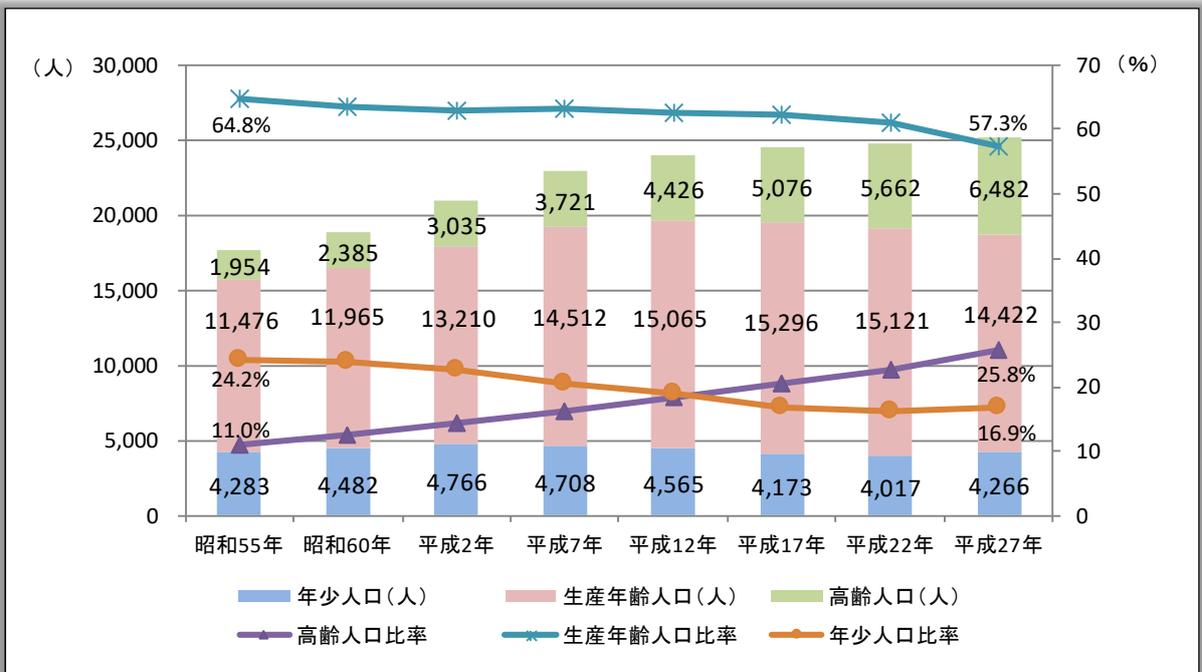
1.3 年齢別人口

- ・年少人口、生産年齢人口は減少傾向、高齢人口は増加傾向にある。
- ・今後も少子高齢化が進行することが予想される。

本町の階層別人口は、平成27年現在、年少人口（0歳～14歳）4,266人、生産年齢人口（15歳～64歳）14,422人、高齢人口（65歳以上）6,482人となっており（分類不明234人）、生産年齢人口は減少傾向、高齢人口は増加傾向になっております。また年少人口は平成22年から平成27年でやや回復がみられるものの、俯瞰的にみると平成2年をピークに減少傾向にあります。

図-1-10～図-1-12で、エリア別の人口比率を確認すると、町の西側や三原地域において年少人口比率が高い一方で、高齢人口比率は町の東側で高い傾向が確認できます。また、生産年齢人口比率については、町の南側（用途地域外の植木や文化会館の西側）で高い状況になっています。

このような状況を踏まえると、本町の総人口は増加傾向にありますが、今後も少子高齢化は進行していくことが予想されます。



出典：国勢調査

図-1-9 3階層別人口の推移

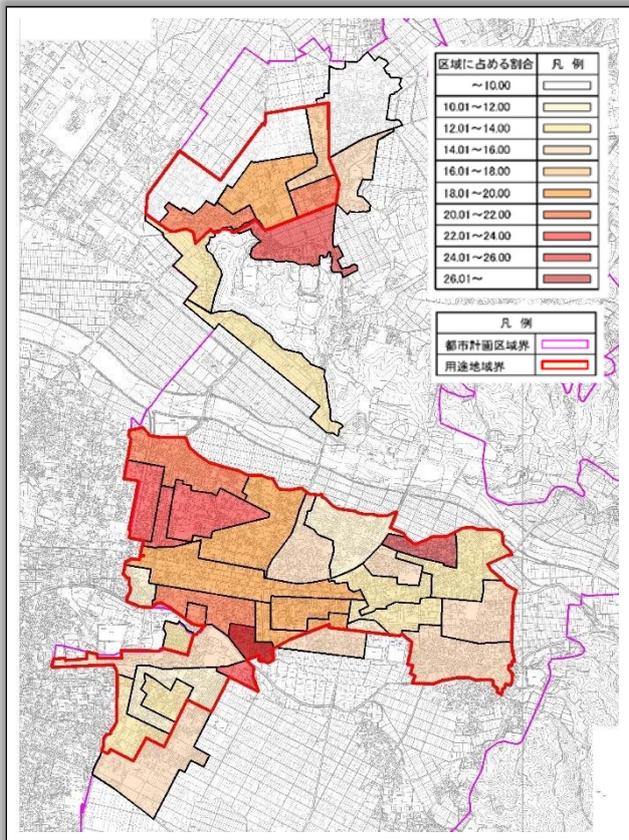


図-1-10 年少人口比率

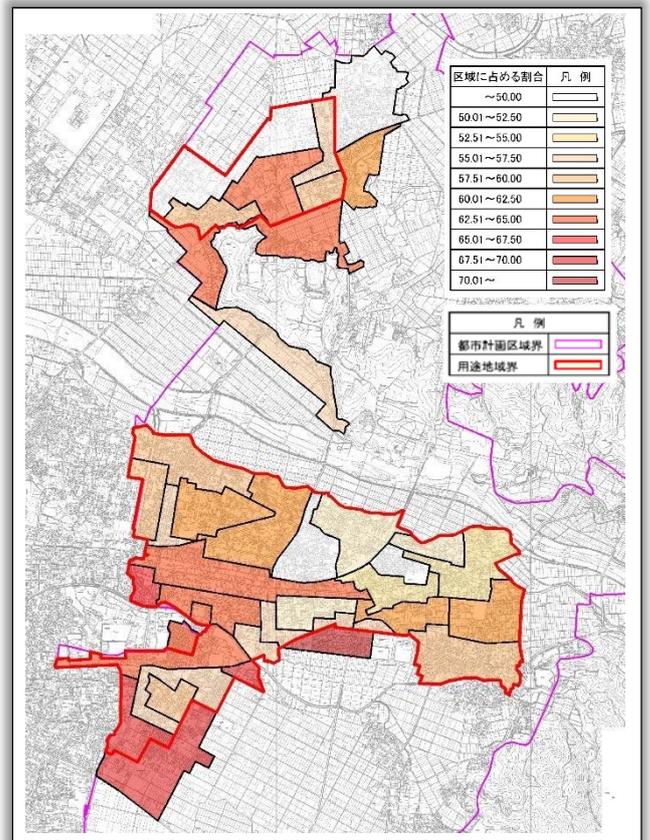


図-1-11 生産年齢比率

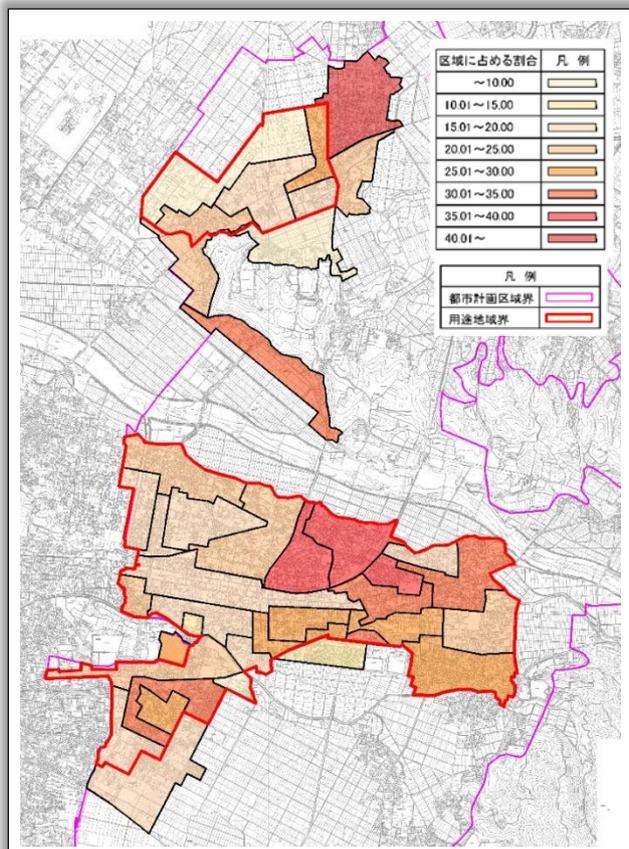


図-1-12 高齢人口比率

## 第1章 三股町の現況

また、宮崎県内において本町と人口規模が近い市町村（人口15,000人～30,000人）と高齢人口比率と年少人口比率を比較すると、高齢人口は低い率を推移しており、年少人口は高い率を推移していることがわかります。

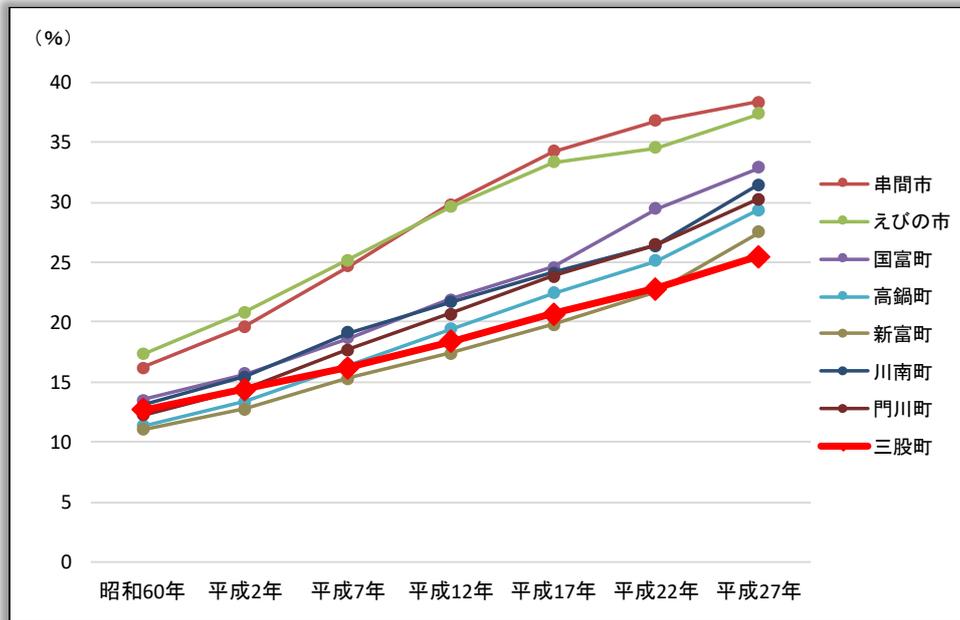


図-1-13 高齢人口比率の比較(県内市町村との比較)

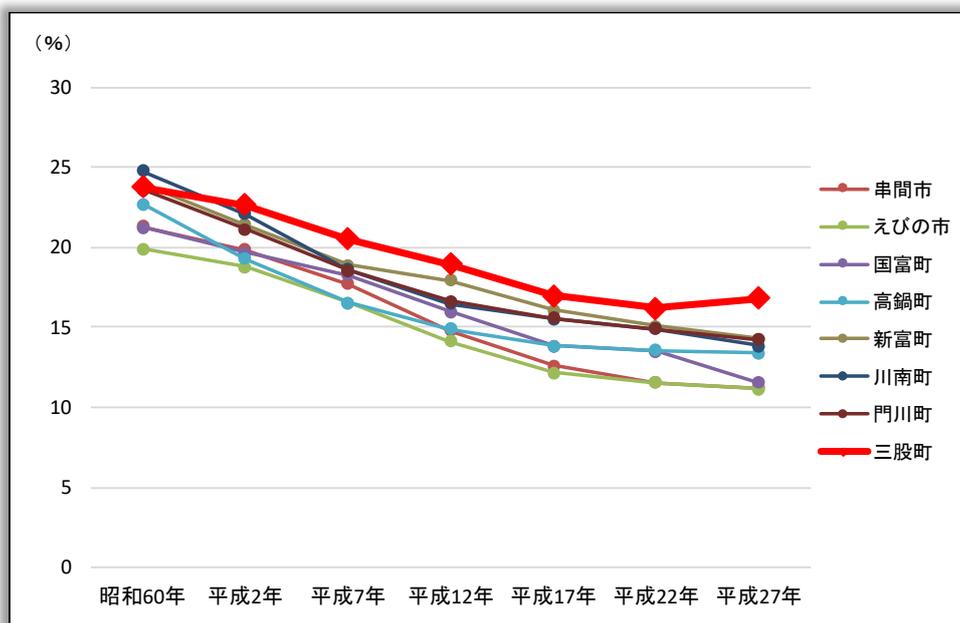


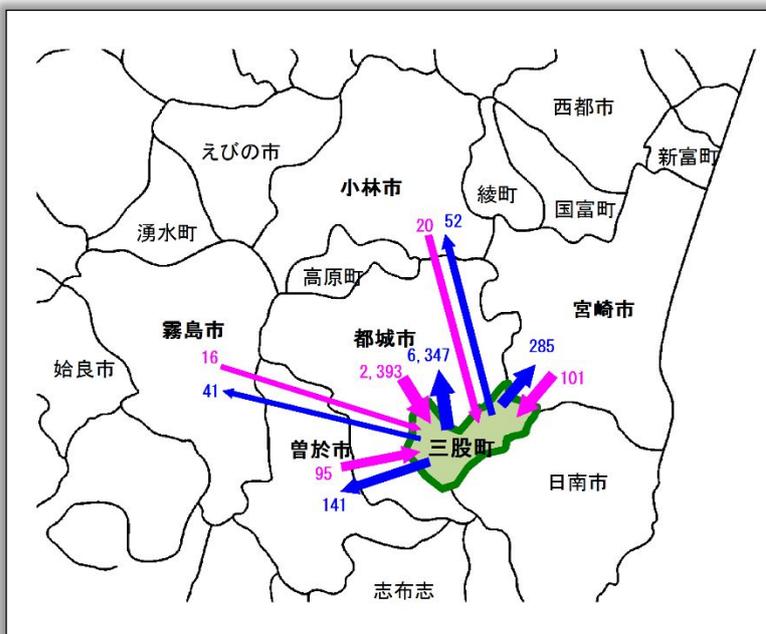
図-1-14 年少人口比率の比較(県内市町村との比較)

1.4 通勤状況からみた都市の性格

- ・ 流出人口 7,125 人、流入人口 2,692 人の流出超過にある。
- ・ 周辺市町村では、都城市との結びつきが非常に強い。
- ・ 三股町の都市性格は「住機能型」に分類される。

本町における通勤の状況を見ると平成 22 年現在、流出人口 7,125 人、流入人口 2,692 人であり、流出超過になっています。

流出先・流入先で最も多いのは都城市であり、2 番目に多い宮崎市との差は大きいものがあります。このように、本町は都城市と密接な関係にあります。



出典:宮崎県都市計画基礎調査調書 都城広域都市計画区域(三股町)

図-1-15 通勤による流出・流入状況

表-1-3 流出・流入人口 (単位:人,%)

	常住地による 就業者数	流出		従業地による 就業者数	流入		就業者 比率 (従/常)
		就業者数	流出率		就業者数	流入率	
平成12年	11,309	6,222	55.0	7,629	2,542	33.3	67.5
平成17年	11,722	6,847	58.4	7,622	2,747	36.0	65.0
平成22年	11,727	7,125	60.8	7,372	2,692	36.5	62.9

表-1-4 流出状況(就業者)

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数
平成12年	都城市	5,058	高城町	241	宮崎市	220	山之口町	147	山田町	76
平成17年	都城市	5,573	高城町	270	宮崎市	224	山之口町	179	山田町	76
平成22年	都城市	6,347	宮崎市	285	曾於市	141	小城市	52	霧島市	41

表-1-5 流入状況(就業者)

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数
平成12年	都城市	1,670	山之口町	243	高城町	207	高崎町	86	山田町	83
平成17年	都城市	1,860	山之口町	220	高城町	205	山田町	79	高崎町	74
平成22年	都城市	2,393	宮崎市	101	曾於市	95	小城市	20	霧島市	16



## 第1章 三股町の現況

また本町は、平成22年現在、県平均と比較して昼夜間人口・自町内就業率ともに低い状況にあり、都市性格指標としては、「住機能型」に分類されます。前頁の通勤状況より、都城広域の市町として、都城市のベッドタウンとしての機能を担っているといえます。

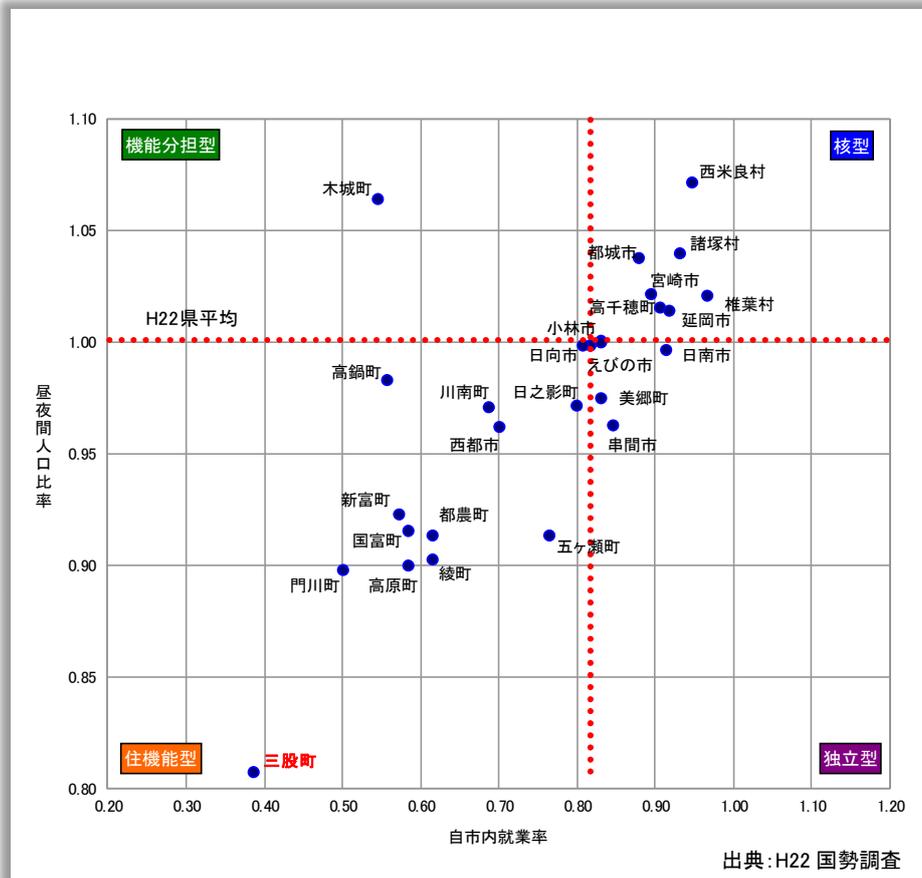


図-1-16 県内主要都市の自市町内就業率・昼夜間人口比率

### ※都市性格概要

核型：自市内で働く人が多く、就業・就学者を含めた昼間の人口が多い都市であり、生活圏における中心都市として機能  
 独立型：自市内で働く人が多いが、昼間の人口は多くない都市であり、1都市である程度独立した生活圏を形成  
 住機能型：自市内で働く人は少なく、夜間の人口が多い都市であり、周辺都市等のベッドタウンとして機能  
 機能分担型：自市内で働く人は少ないが、昼間の人口が多い都市であり、職等の機能に特化

1.5 年齢層別純社会移動数の推移

- ・年少期、現役期、熟年期・長寿期においては、概ね転入が転出を上回っている。
- ・社会的自立期においては、15～19歳・20～24歳で転出が大きくなっている。

右図は、年齢層による純社会移動（転入-転出）数を示したものです。具体的には、昭和60年（1985年）から平成22年（2010年）まで5年ごとの期間について、年齢別に純社会移動数の変化を示したものです。

年少期においては、ほぼ全ての期間において転入が上回っており、就学前から就学前後の子どもがいる世帯の転入が多いことを示しているといえます。

高校・大学などを卒業し、進学・就職する社会的自立期においては、15～19歳、20～24歳の転出が大きくなっています。一方、25～29歳の若者は転入超過にありますが、転入数は減少傾向にあります。

現役期については、昭和60年（1985年）から平成17年（2005年）までの期間では、すべての年齢層で転入が転出を上回っていましたが、平成17年（2005年）から平成22年（2010年）は45～49歳で転出が若干上回る結果となりました。

熟年期・長寿期については、ほぼ全ての年齢層で転入が転出を上回っています。

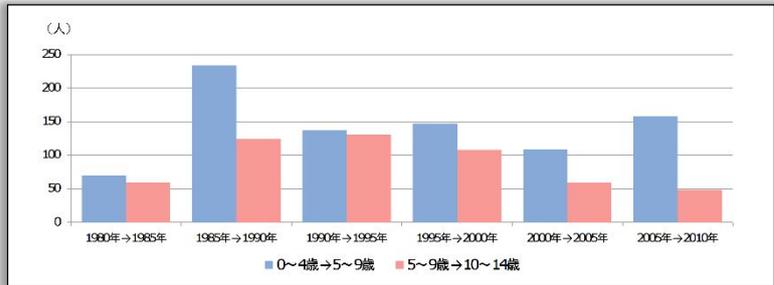


図-1-17 年少期 0～9歳→5～14歳の社会移動数の推移

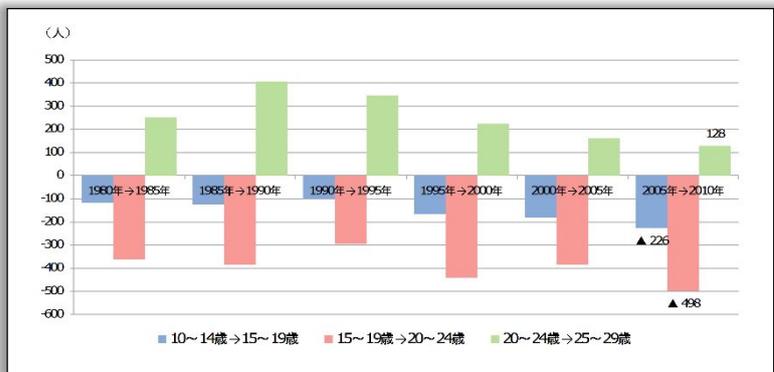


図-1-18 社会的自立期 10～24歳→15～29歳の社会移動数の推移

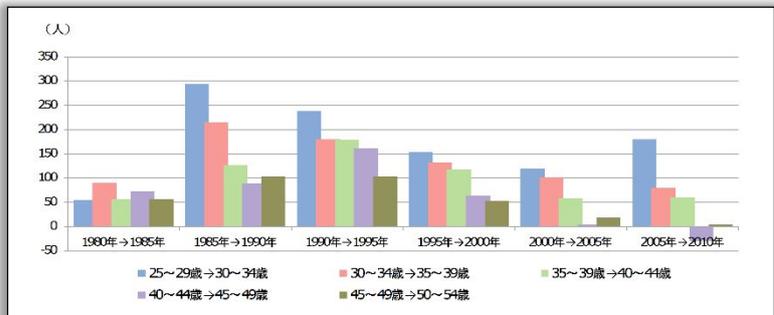


図-1-19 現役期 25～49歳→30～54歳の社会移動数の推移

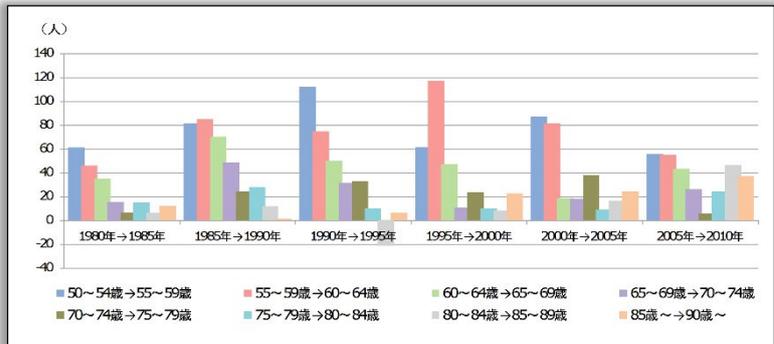


図-1-20 熟年期・長寿期 50～85歳→55～90歳の社会移動数の推移

出典：三股町まち・ひと・しごと創生 総合戦略



### 1.6 小中学校の児童・生徒数

- ・ 小学校の児童数は増加傾向にあり、中学校の生徒数はほぼ横ばいの状況にある。
- ・ 町内の西部・中部から梶山・長田小学校に通学するスクールバスの運行を開始している。

本町における小学校の児童数は、平成24年度に1,579人まで減少したものの、その後増加傾向に転じ、平成29年度には1,795人になっています。

最近では、町民の多様な教育ニーズに対応することを目的として、町内の西部・中部から梶山小学校・長田小学校に通学することを可能とし、スクールバスも運行しています。

一方、中学校の生徒数は近年ほぼ横ばいの状況にあります。

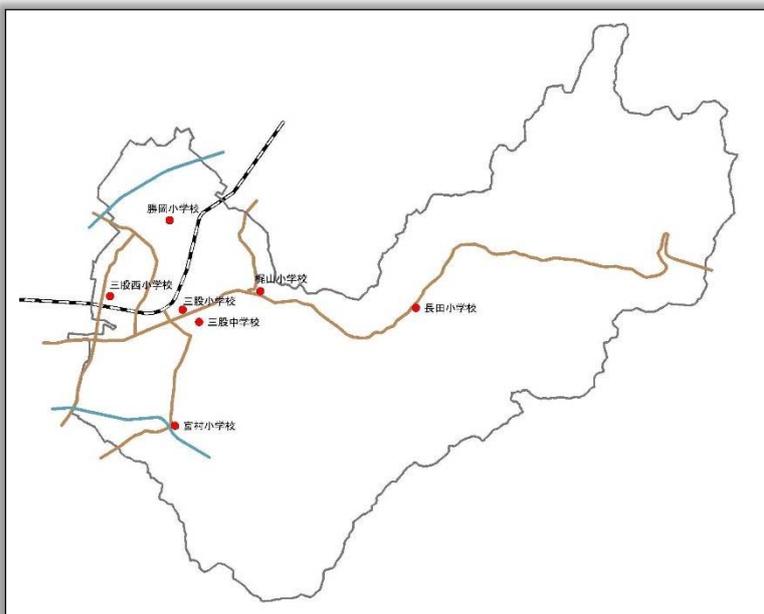


図-1-21 小学校・中学校の位置図

表-1-6 小中学校の児童・生徒数の推移

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
三股小学校	532	502	469	460	435	416	424	414	431	438	481
勝岡小学校	298	303	294	300	292	268	275	283	295	299	311
梶山小学校	70	74	68	68	65	59	64	68	69	63	71
宮村小学校	85	73	80	74	74	71	91	97	105	114	124
長田小学校	33	36	29	27	25	22	24	21	19	25	33
三股西小学校	759	731	732	726	741	743	734	752	770	763	775
小学校計	1,777	1,719	1,672	1,655	1,632	1,579	1,612	1,635	1,689	1,702	1,795
三股中学校	958	927	918	916	853	830	806	794	781	801	793

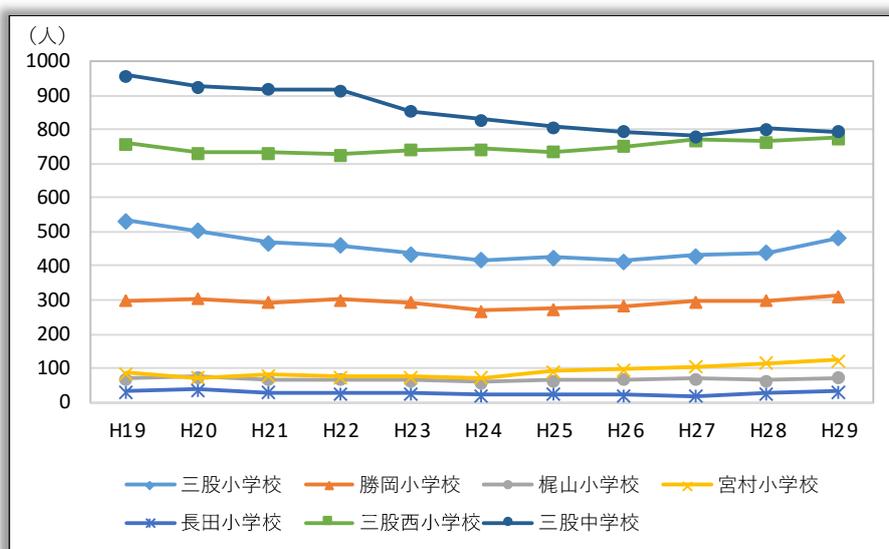


図-1-22 小学校・中学校の生徒数の推移

## 2. 産業

## 2.1 産業分類別人口

・第1次産業・第2次産業の就業者数が減少しているのに対して、第3次産業の就業者数が増加している。

産業別就業者人口の構成は、平成27年現在で第1次7.0%、第2次26.0%、第3次66.5%と第3次産業就業者の割合が最も高くなっています。県平均と比較すると第3次産業の割合はほぼ同じであるのに対して、第1次産業の割合は低く、第2次産業の割合は高くなっています。

平成12年から平成22年の就業者数の推移をみると、第1次産業と第2次産業は減少しているのに対して、第3次産業の就業者数は増加していることが確認できます。

表-1-7 産業別就業者数の推移

(単位:人,%)

		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	増減率 (H17→H27)	宮崎県 (平成27年)
第1次産業	就業者数	1,476	1,180	1,189	1,029	839	71%	56,021
	構成比	13.4	10.4	10.1	8.8	7.0		10.8
第2次産業	就業者数	3,525	3,448	3,273	3,026	3,099	95%	107,057
	構成比	32.0	30.5	27.9	25.8	26.0		20.6
第3次産業	就業者数	6,020	6,676	7,190	7,529	7,927	110%	345,159
	構成比	54.6	59.0	61.3	64.2	66.5		66.5
分類不能の産業	就業者数	1	5	70	143	62		10,973
	構成比	0.0	0.0	0.6	1.2	0.5		2.1
総数		11,022	11,309	11,722	11,727	11,927		519,210

出典:国勢調査

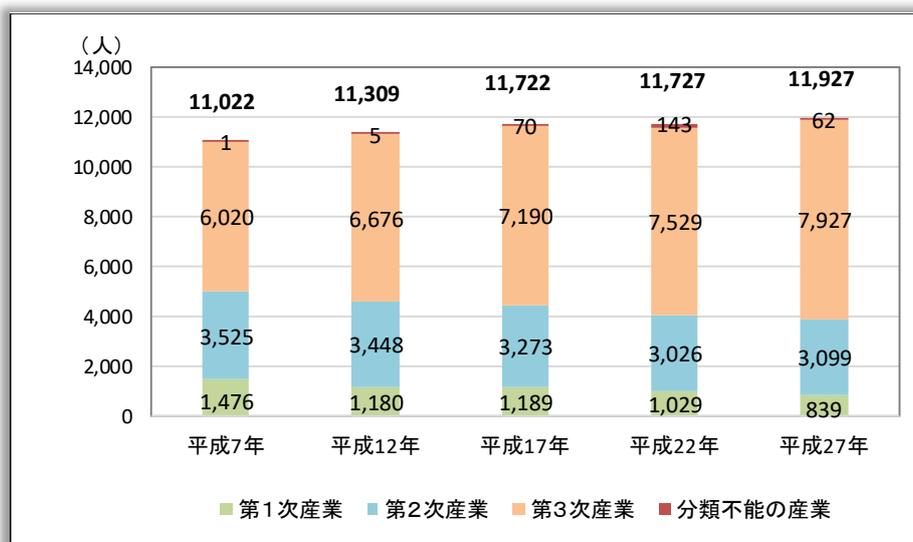


図-1-23 産業別就業者数の推移

出典:国勢調査



# 第1章 三股町の現況

詳細な産業別の就業状況では、「E 製造業」、「I 卸売業、小売業」、「P 医療、福祉」が大きな雇用を生み出しており、平成17年と平成27年の比較では「P 医療、福祉」が増加しています。

また就業者の60歳以上の比率が高いのは、「A 農業、林業（約54%=(234人+217人)/832人）」で、第1次産業の高齢化が確認できます。一方、29歳以下では「G 情報通信業（約26%=(2人+17人)/74人）」、「M 宿泊業、飲食サービス業（約23%=(26人+76人)/452人）」、「Q 複合サービス事業（約22%=(8人+30人)/173人）」で高い割合を示しています。

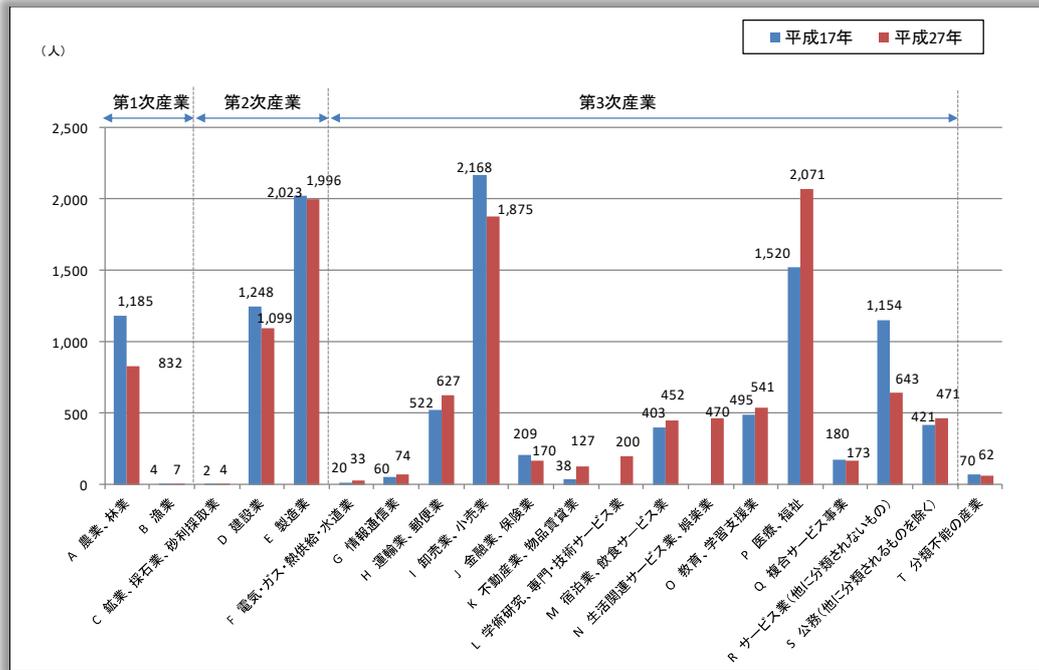


図-1-24 産業別就業人口(15歳以上)の推移

出典:国勢調査

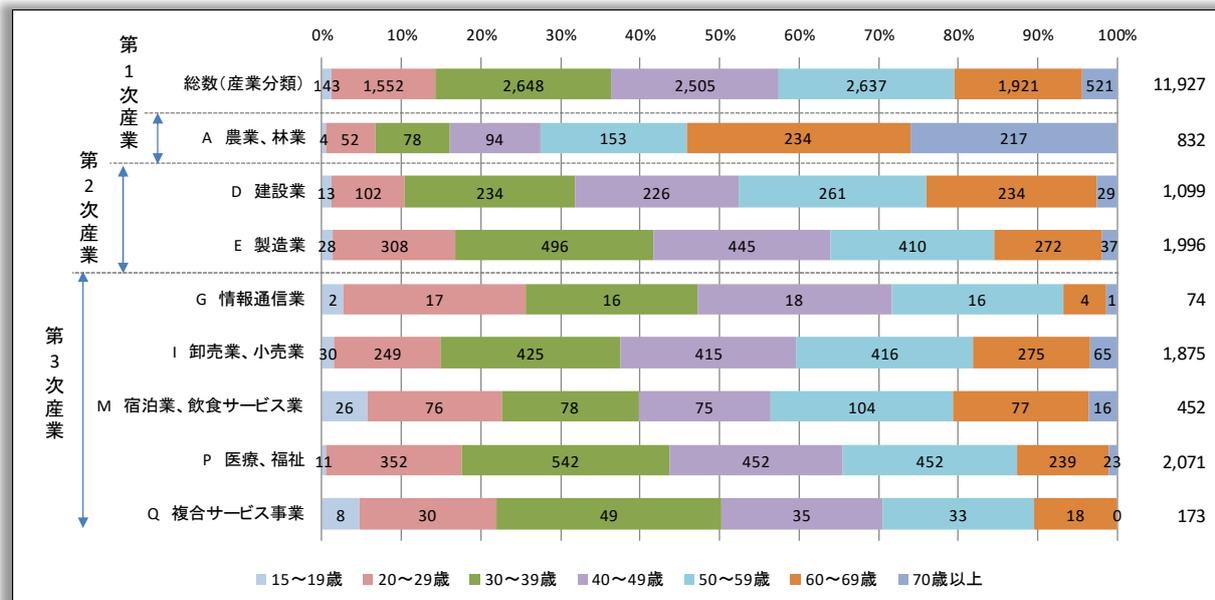


図-1-25 年齢階級別産業人口比率(平成27年)

出典:国勢調査

2.2 第1次産業の状況

- ・認定農業者を中心に経営規模が拡大しており、大型機械導入による効率化が図られている。
- ・後継者不足や条件が不利な農地の管理・活用が課題になっている。

(1) 農業の状況

平成17年と平成27年の総農家数・販売農家数・自給的農家を比較すると、農家数の減少率(72.68%)に比べて、面積は87.99%と減少率が小さいことが確認できます。これより、1戸あたりの農家面積が大きくなっている傾向が伺えます。この内、販売農家面積(下図)を確認すると、農家数の占める割合が大きい「0.3～1.0ha」規模で平成17年から平成27年の減少率が最も高い一方で、平成22年からは「10.0～20.0ha」規模の農家もみられるようになっています。

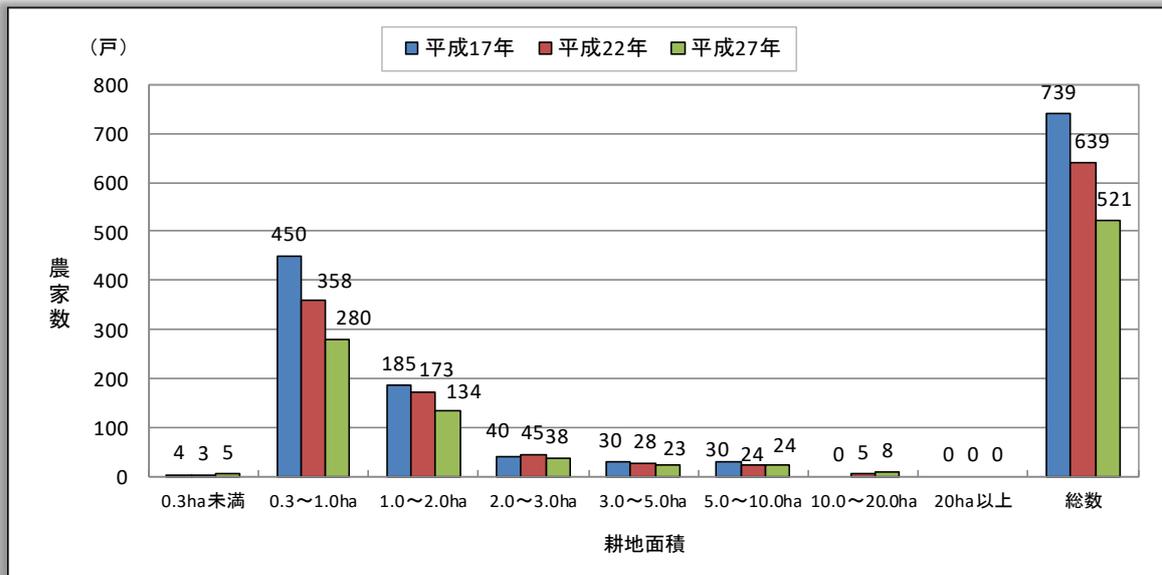
このように、認定農業者を中心に経営規模が拡大しており、大型機械の導入による効率化が図られてきています。一方、農家の高齢化や後継者不足、条件が不利な農地(大型機械が入りにくい農地や追田など)の管理・活用が課題となっています。

表-1-8 総農家、販売農家、自給的農家別農家数及び経営耕地面積

(単位:戸、a)

	総農家		販売農家		自給的農家	
	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
平成17年	1,241	999	739	907	502	92
平成22年	1,103	919	639	920	464	92
平成27年	902	879	521	813	381	66
変動率(H17→H27)	72.68%	87.99%	70.50%	89.64%	75.90%	71.74%

出典:数字で見る三股町



出典:農林業センサス、数字で見る三股町

図-1-26 経営耕地面積規模別農家数(販売農家)



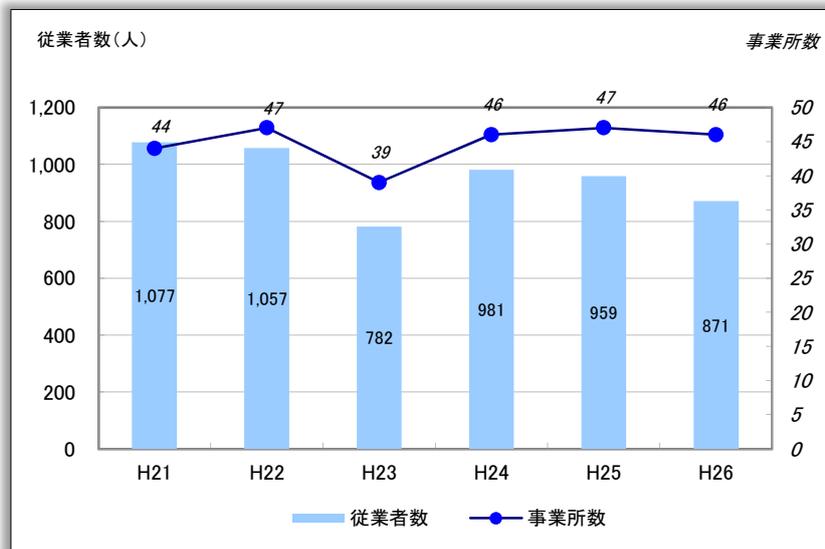
2.3 第2次・第3次産業の状況

- ・ 製造業：従業者数は減少傾向、事業所数・製造品出荷額はほぼ横ばいの状況である。
- ・ 商業：事業所数は減少傾向が大きく、従業者数と年間販売額はほぼ横ばいの状況である。

(1) 製造品出荷額等及び事業所数の推移（従業者4人以上）

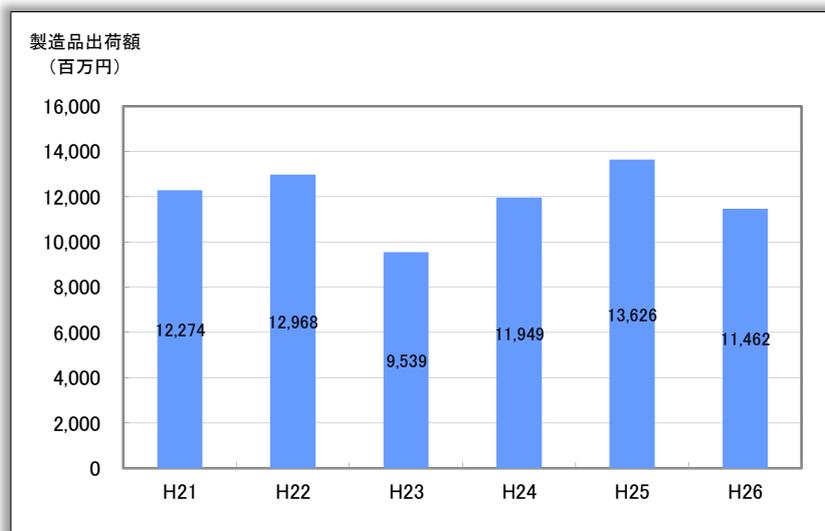
平成26年現在、事業所数46件、従業者数871人、製造品出荷額は115億円になっています。

経年的には、従業者数は概ね減少傾向にありますが、事業所数・製造品出荷額はほぼ横ばいにあります。地域経済の活性化のためにも、地場産業の振興と企業誘致の推進等が求められています。



出典：工業統計調査

図-1-27 事業所数、従業者数の推移(従業者数4人以上の製造業)



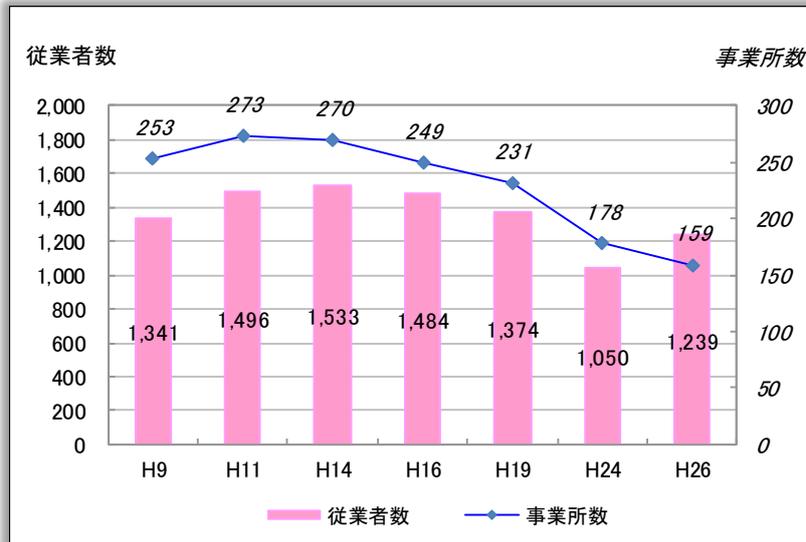
出典：工業統計調査

図-1-28 製造品出荷額の推移

(2) 年間販売額及び事業所数の推移

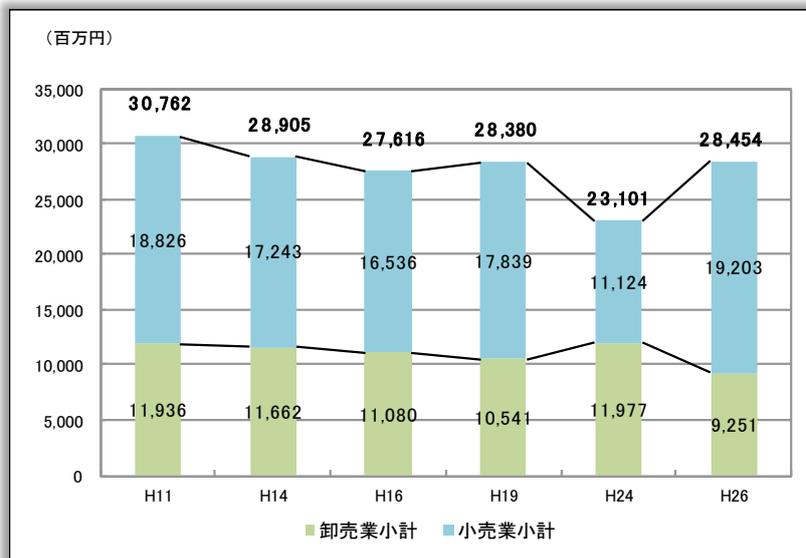
平成26年現在、事業所数159件、従業者数1,239人、年間販売額285億円になっています。

経年的には、事業所数の減少傾向が大きく、従業者数と年間販売額はやや減少傾向になっています。



出典: 商業統計調査

図-1-29 事業所数、従業者数の推移(商業)



出典: 商業統計調査

図-1-30 年間商品販売額の推移



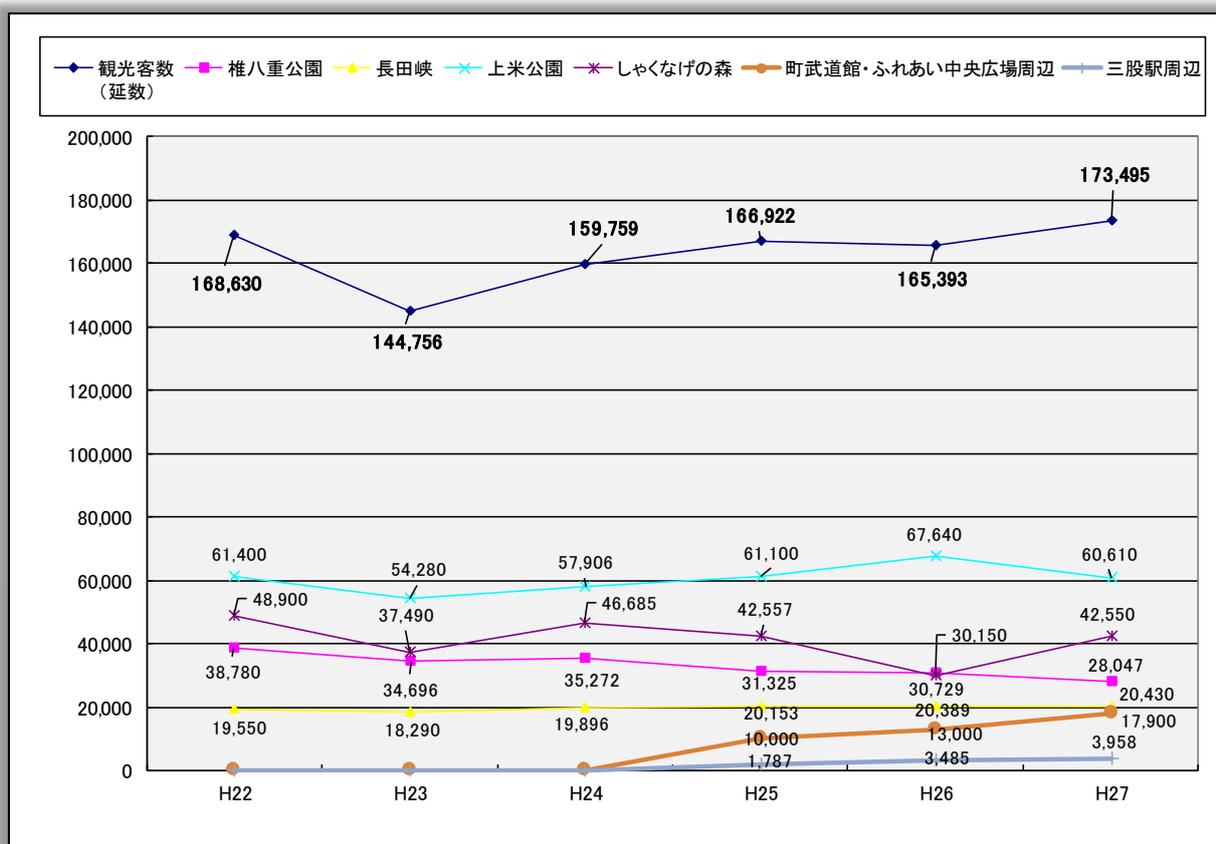
## 2.4 観光

- ・町全体の観光客数は、平成23年頃から増加傾向にある。
- ・近年では、町の中心部において交流人口を増やす新たなイベントが開催されている。

平成27年現在の観光客数は173,495人になっており、口蹄疫や新燃岳の噴火等による影響を受けた平成22年・23年頃からは、増加傾向にあります。

近年では、町の中心部において町内外からの交流人口を増やす新たなイベント（モノづくりフェア、みまたん霧島パノラマまらそん）をはじめ、三股駅周辺ではにぎわい創出のためのイベント（よかもん朝市、よかよか夜市、キャンドルナイトみまた）、町と観光協会が連携した祭り（早馬まつり、椎八重公園ツツジまつり、上米公園さくらまつり）等の開催、平成28年度からは外国人観光客を呼び込むためのインバウンド事業（外国語標記の観光案内板の設置、長田峡植栽整備、長田・梶山地域にカップオブジェの設置、多言語観光パンフレットの作成および物産品PR事業の展開等）を実施しており、新たな視点での観光客・交流人口が増えております。

一方で、個別の観光スポットの観光客数は、横ばいの状況です。



出典：観光動向調査

※町武道体育館・ふれあい中央広場周辺の数値は、モノづくりフェア、みまたん霧島パノラマまらそんを対象としています。

三股駅周辺の数値は、よかもん朝市、よかよか夜市、キャンドルナイトみまたを対象としています。

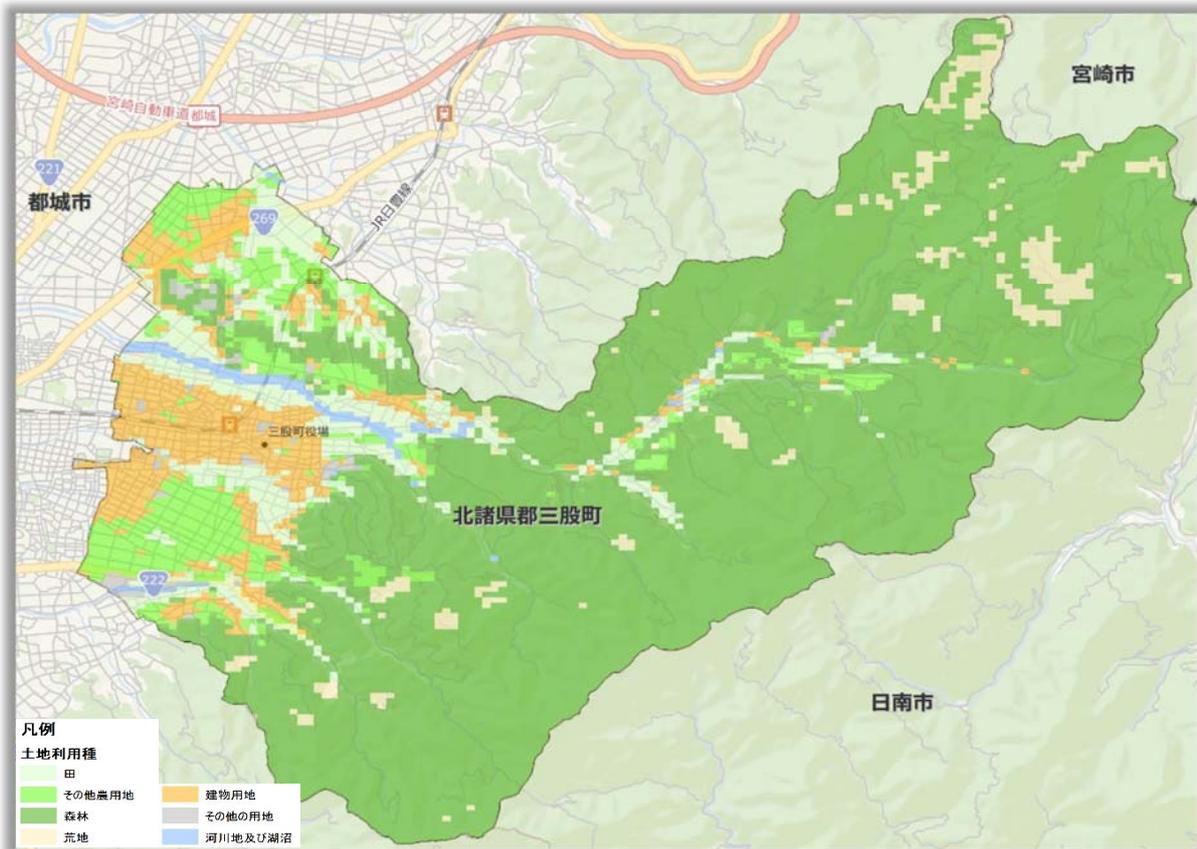
図-1-31 観光客数の推移

3. 土地利用

3.1 土地利用の状況

- ・本町全域の土地利用構成は森林が約7割を占めている。
- ・用途地域指定内では、土地利用の半分以上を住宅用地が占めている。

本町全域の土地利用構成は、森林が約70%、田・農用地が約15%、宅地（住宅用地）が約8%、その他公共用地や河川等の豊かな自然を有する土地利用となっています（国土交通省国土数値情報：土地利用細分メッシュ H21 より）。これを用途地域指定区域内でみると、自然的土地利用が18.1%、都市的土地利用が81.9%を占め、都市的土地利用の内、住宅用地が半分以上の44.4%を占めています。



出典：国土交通省 国土数値情報（土地利用細分メッシュ（H21））

図-1-32 土地利用の状況図

表-2-9 用途地域指定区域内における土地利用の状況

	都市的土地利用								小計
	宅地				公共・公益用地	道路用地	交通施設用地	その他の空地	
	住宅用地	商業用地	工業用地	小計					
土地利用面積(ha)	226.4	29.9	39.1	295.4	37.2	76.0	3.0	6.3	417.8
比率(%)	44.4	5.9	7.7	57.9	7.3	14.9	0.6	1.2	81.9
	自然的土地利用							合計	
	農地		山林	水面	その他の自然地	小計			
	田	畑							
土地利用面積(ha)	13.0	65.6	78.6	1.7	2.3	9.5	92.2	510	
比率(%)	2.6	12.9	15.4	0.3	0.4	1.9	18.1	100.0	

出典：宮崎県都市計画基礎調査調書 都城広域都市計画区域(三股町)[平成26年度調査]

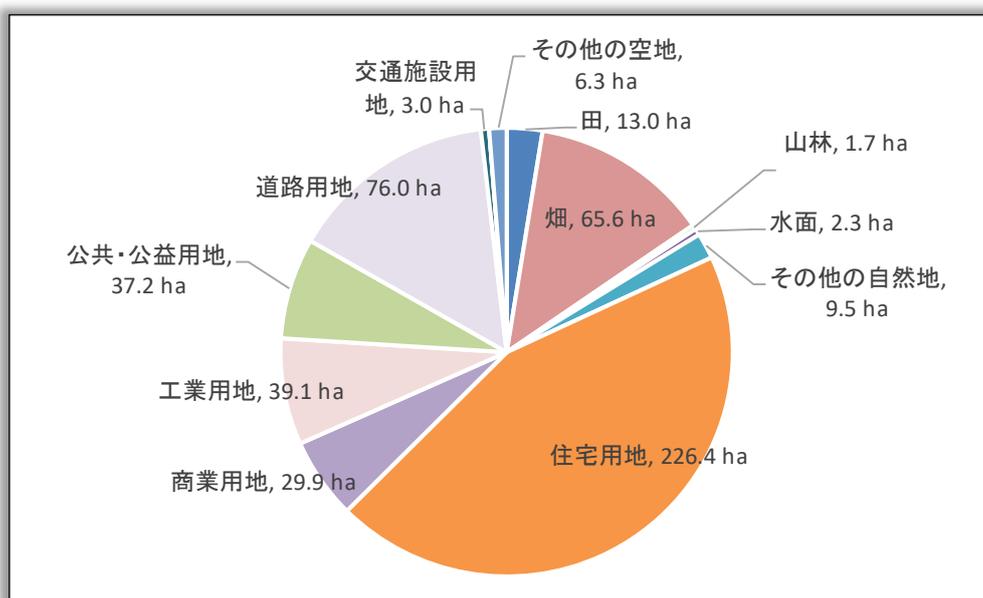
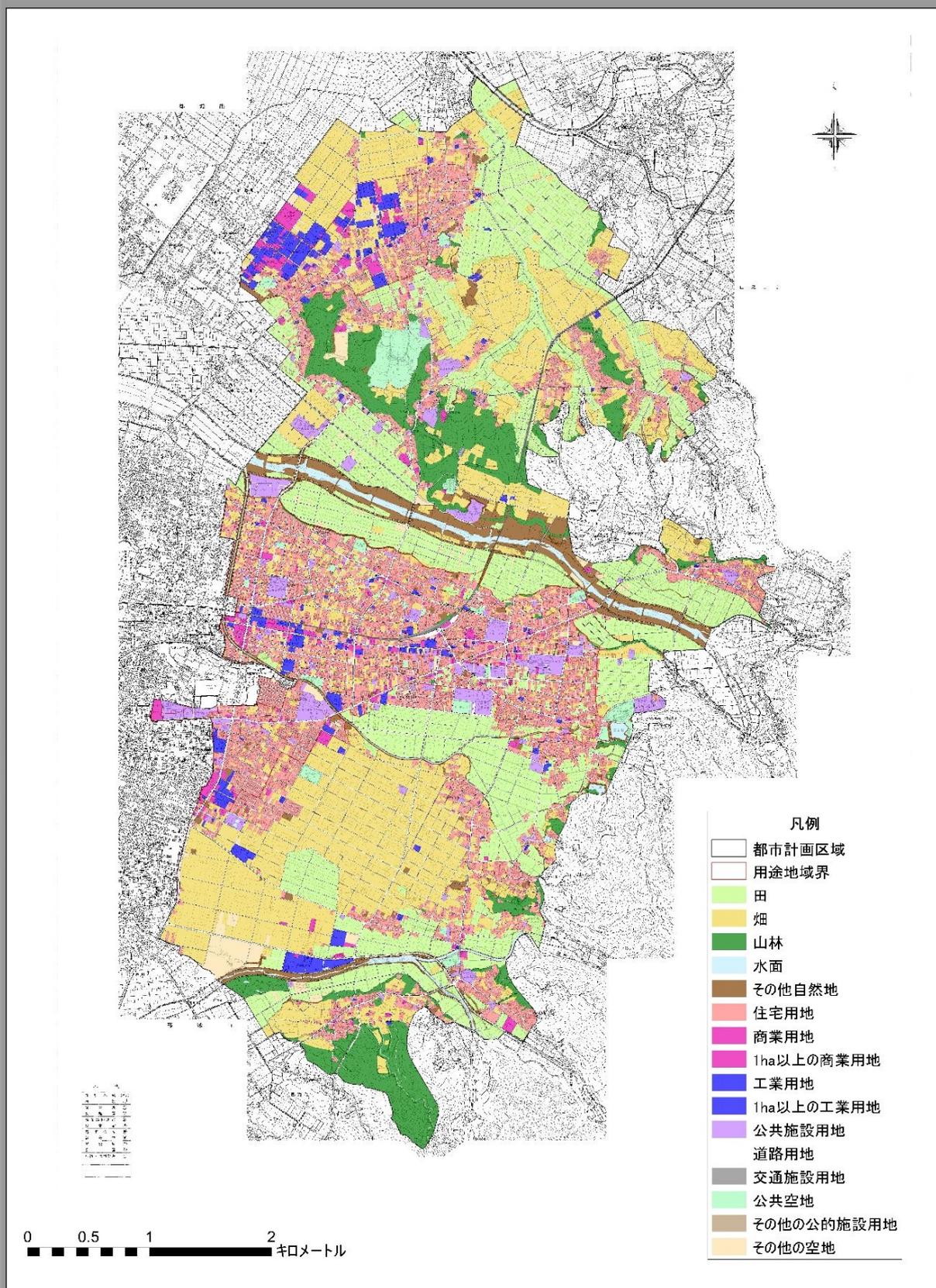


図-1-33 用途地域指定区域内における土地利用の割合



出典:宮崎県都市計画基礎調査調書 都城広域都市計画区域(三股町)[平成26年度調査]

図-1-34 土地利用現況図



### 3.2 法規制の状況

- ・都市地域については、都城市と一体的な土地利用区域になっている。
- ・平坦地の農地は、「農用地区域」指定による農業の推進を図っている。

本町では、都市計画法による指定（都市計画区域、用途地域）、農業振興地域の整備に関する法律による指定（農業振興地域、農用地区域）、森林法による適用（地域森林計画対象民有地、保安林）、自然公園法による指定（自然公園地域）があります。

都市地域（都市計画区域）については、都城市と一体的な土地利用区域になっています。また、平坦地の農地は、農用地区域指定による農業の推進を図っています。

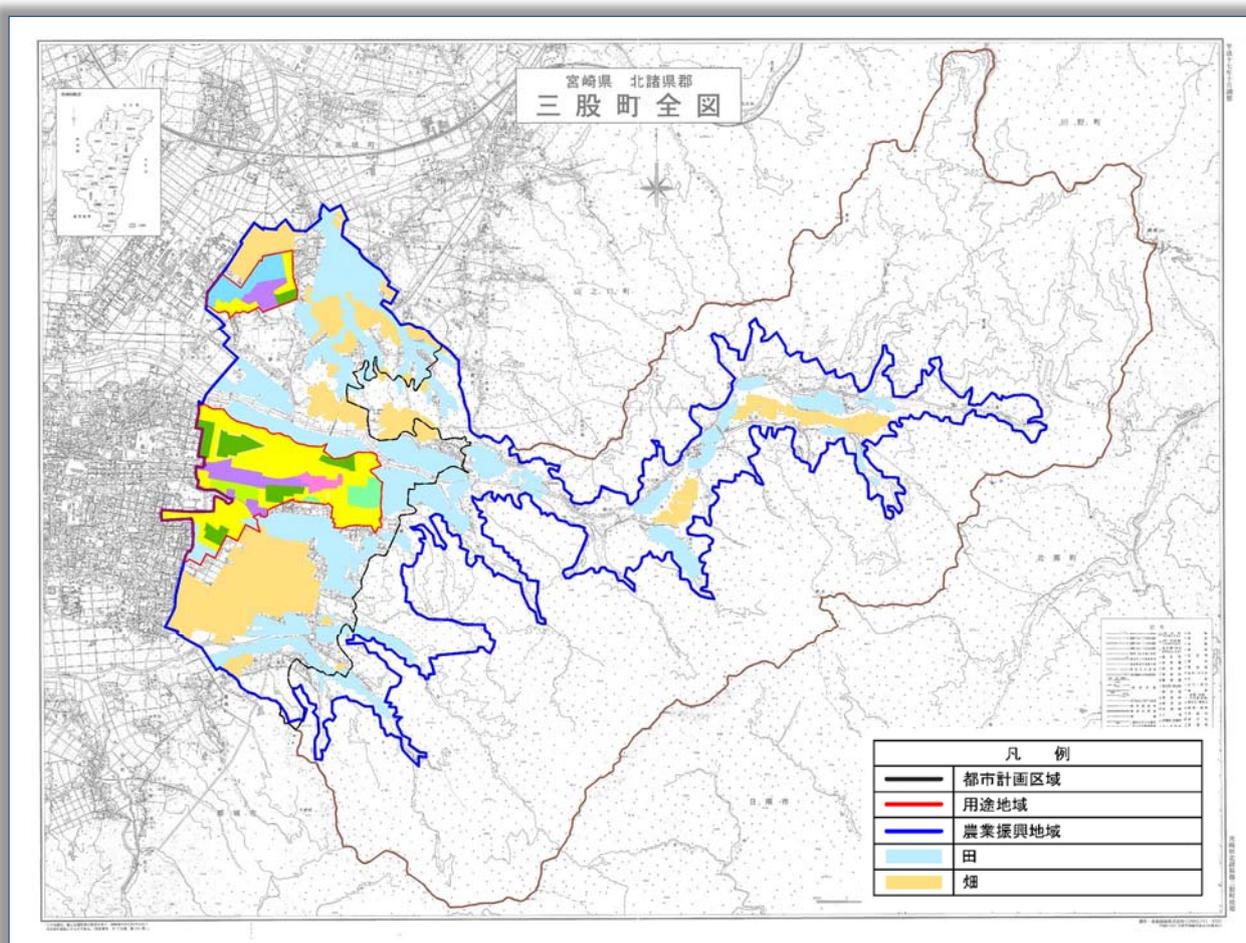


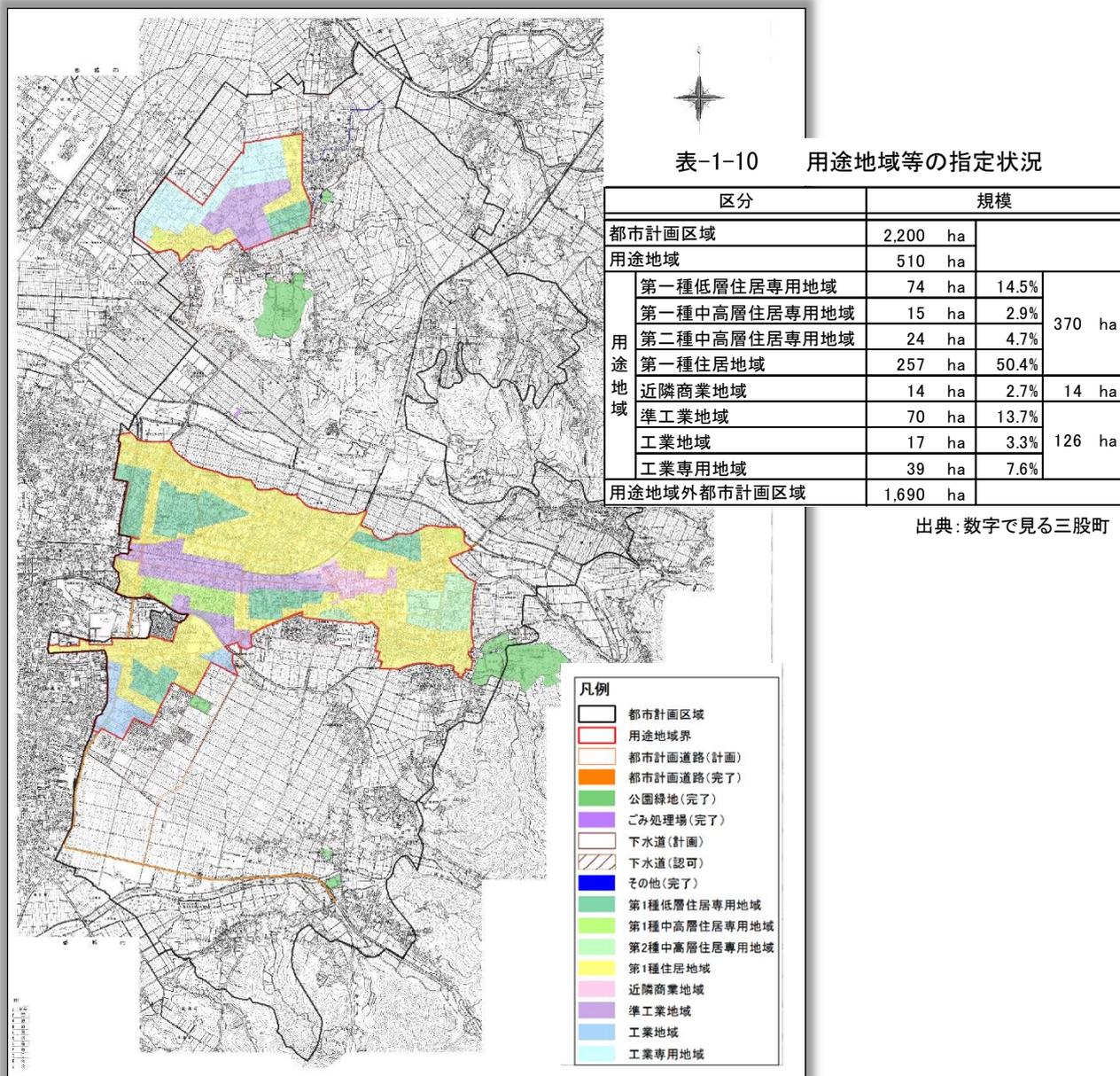
図-1-35 法適用状況図(用途地域・農業振興地域)

### 3.3 都市計画区域・用途地域等の状況

- ・ 都城広域都市計画区域の一部として、都市計画区域の指定を受けている。
- ・ 町内の都市計画区域 2,200ha の内、510ha で用途地域を指定している。

本町は都城広域都市計画区域(18,591ha)の内、2,200haの都市計画区域の指定を受けており、用途地域 510ha を指定しています。

用途地域の構成は、住居系の用途地域（第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域）が 370ha、商業系（近隣商業地域）が 14ha、工業系（準工業地域、工業地域、工業専用地域）が 126ha となっています。



出典：宮崎県都市計画基礎調査調書 都城広域都市計画区域(三股町)

図-1-36 用途地域の指定状況



### 3.4 新築動向

- ・新築着工は「住宅」が大部分を占める。
- ・用途地域外縁部（三原、植木）においても、新築着工が多くみられる。

平成23年から平成27年までの新築着工状況をみると、用途地域内で年間80～100件程度、用途地域外で40～50件程度の新築着工がみられ、いずれも住宅が大部分を占めています。

新築状況の分布をみると、用途地域内だけでなく、用途地域外縁部の三原（北部用途地域の南側）や植木（南部用途地域の南側）、既存集落の宮村において多くなっています。

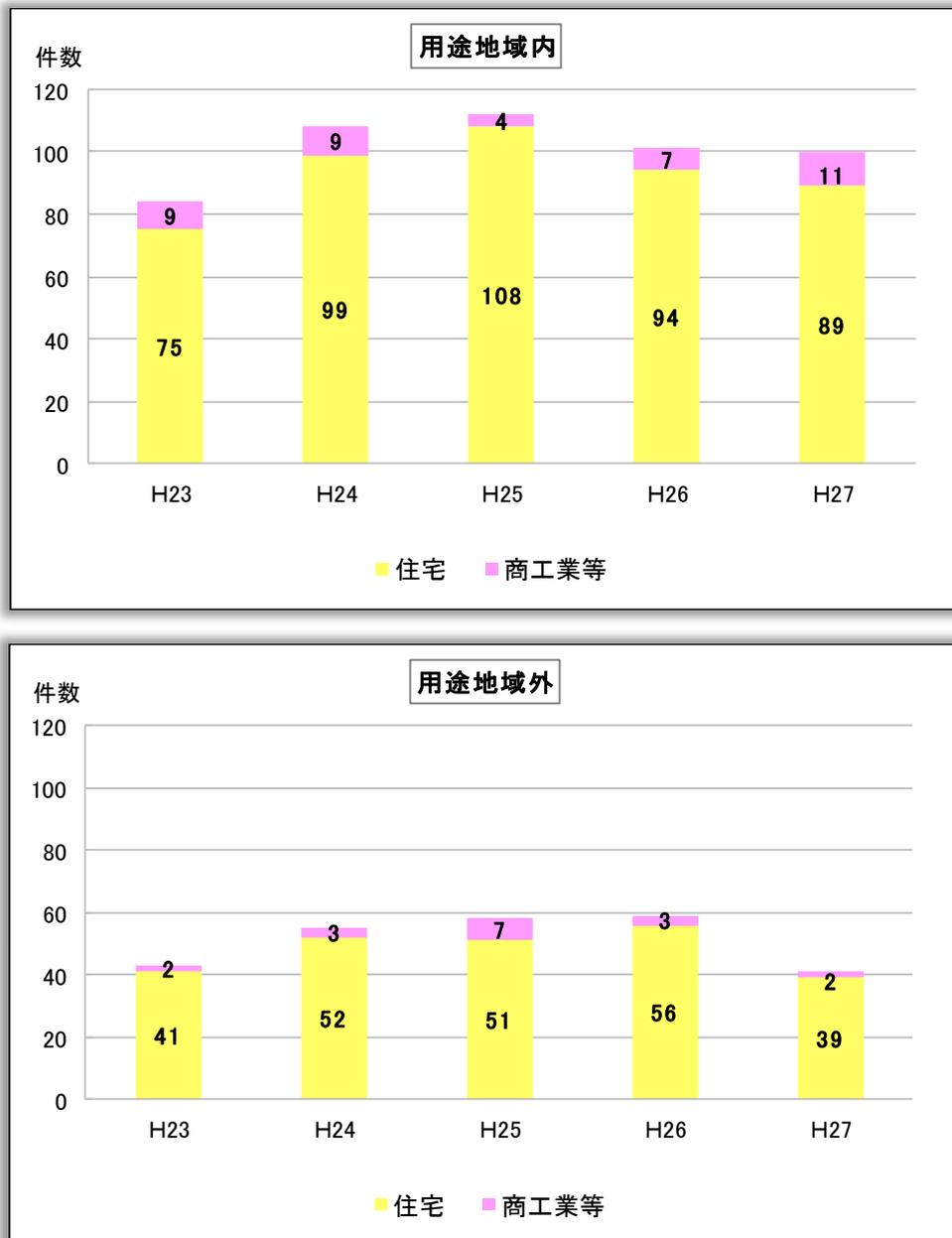


図-1-37 新築着工建物の状況

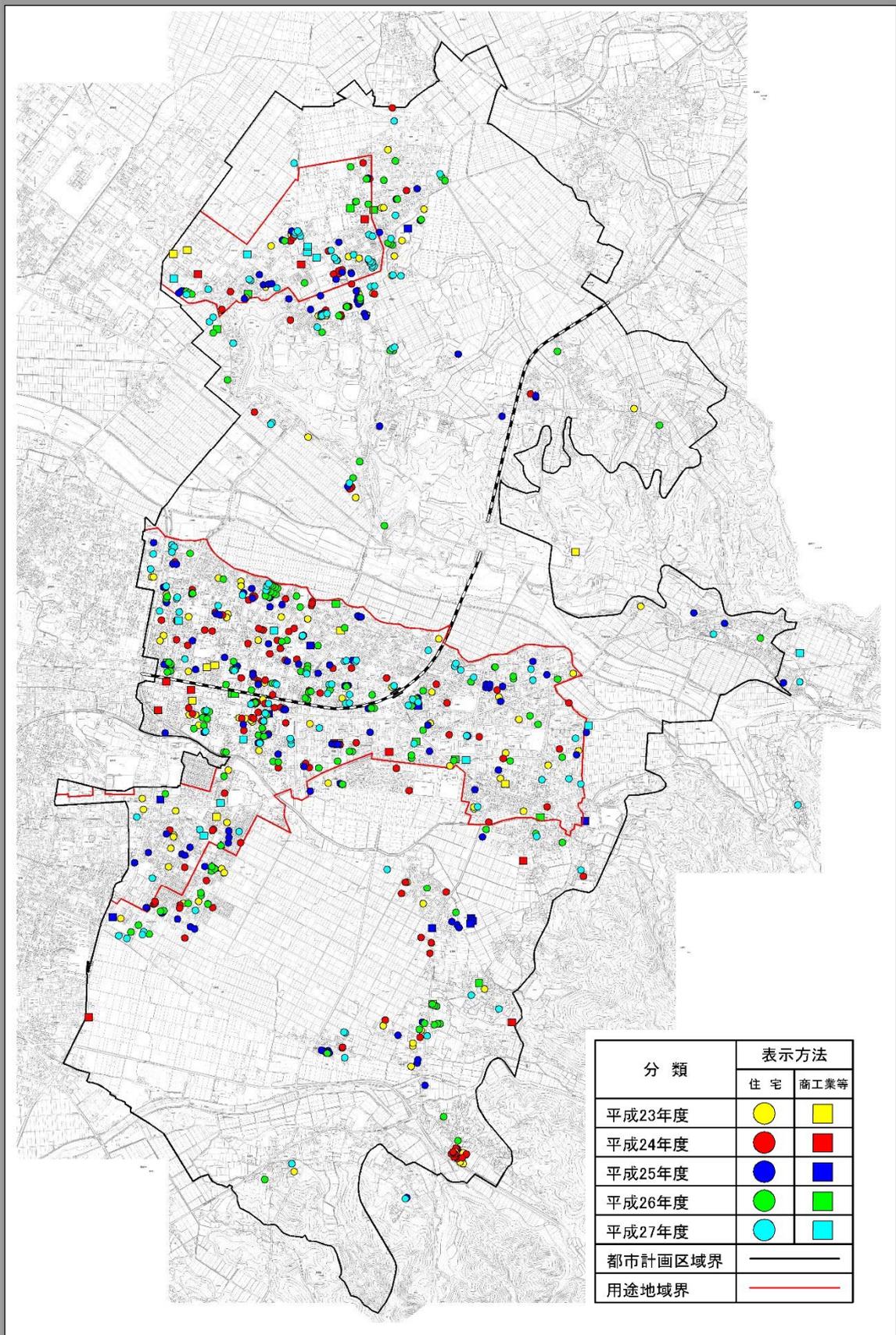


図-1-38 新築着工建物の状況図

3.5 農地転用状況

・新規住宅着工と同じく、用途地域や用途地域外縁部（三原、植木）、既存集落（宮村）において、転用が多くみられる。

農地転用の状況（平成23年～平成27年）をみると、毎年120～150件程度の件数があります。

転用の位置は、新規住宅着工と同じく、用途地域や用途地域外縁部の三原（北部用途地域の南側）や植木（南部用途地域の南側）、既存集落の宮村において多くなっています。

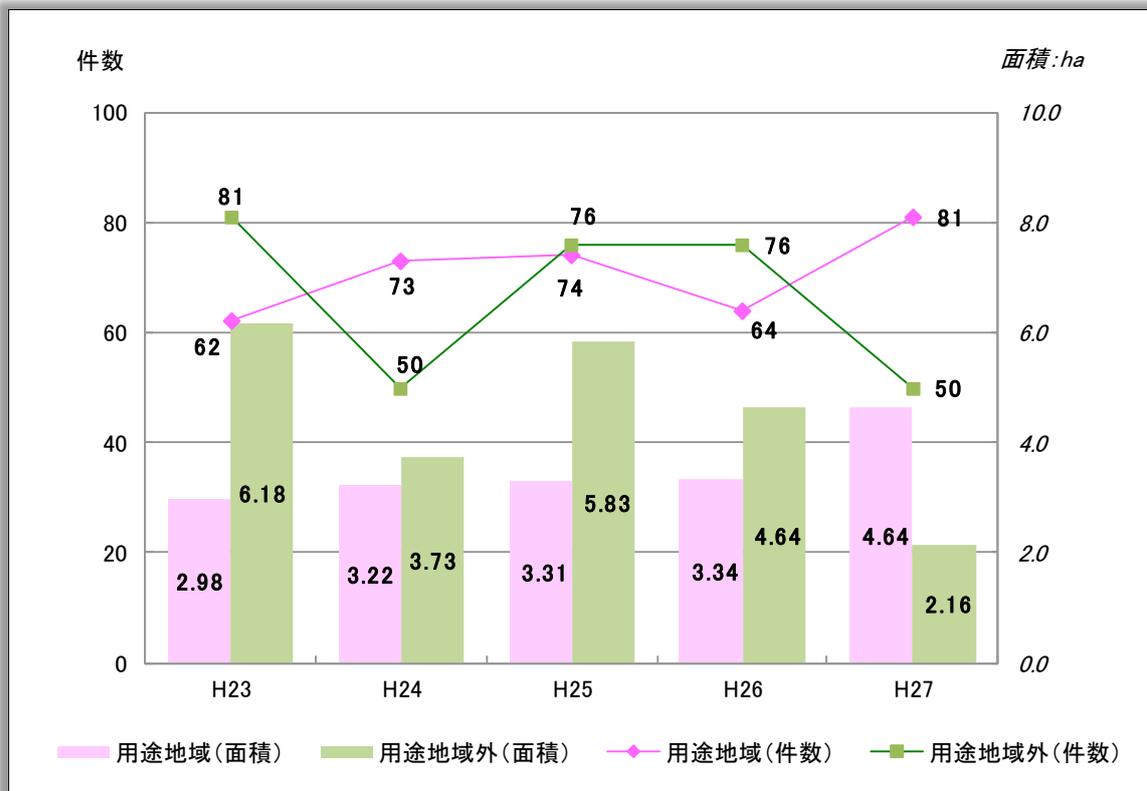


図-1-39 農地転用の状況

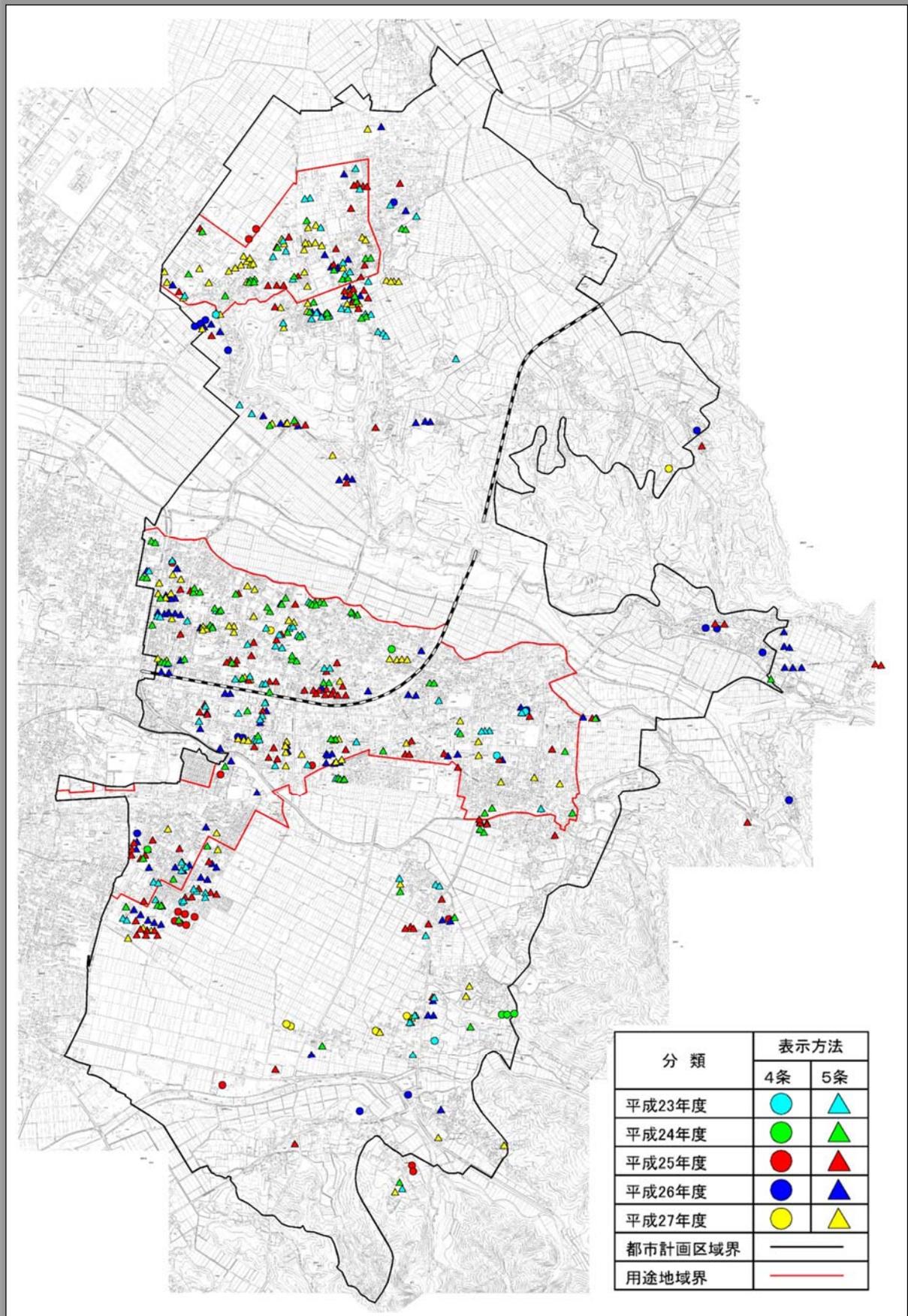


図-1-40 農地転用状況図



3.6 市街地整備の状況

- ・ 施行済みの土地区画整理事業地区において、非宅地の土地利用がみられる状況にある。
- ・ 市街地を中心としてハード事業・ソフト事業による都市再生整備計画事業（H20～H28）を実施している。

(1) 土地区画整理事業

本町における市街地整備については、土地区画整理事業の完了地区が4地区あります。

表-1-11 土地区画整理事業施行地区の一覧

(面積 ; ha)

地区名	施行者	面積	施行年度	事業認可 (認可年月日)	事業認可 告示番号	減歩率	公共用 地率	備 考 (換地処分)
1	五本松 町	14.1	S45～53	昭.45.11.20	町告示第6号	23.5%	22.3%	昭50.2完了
2	稗田 町	40.6	S47～55	昭.47.7.26	町告示第24号	21.8%	25.1%	昭53.1完了
3	新馬場 町	32.9	S53～58	昭.53.12.16	町告示第41号	20.0%	26.3%	昭58.7完了
4	花見原 個人	8.3	S59～61	昭.59.12.18	県告示第1451号	11.9%	23.0%	昭61.2完了
計		95.9						

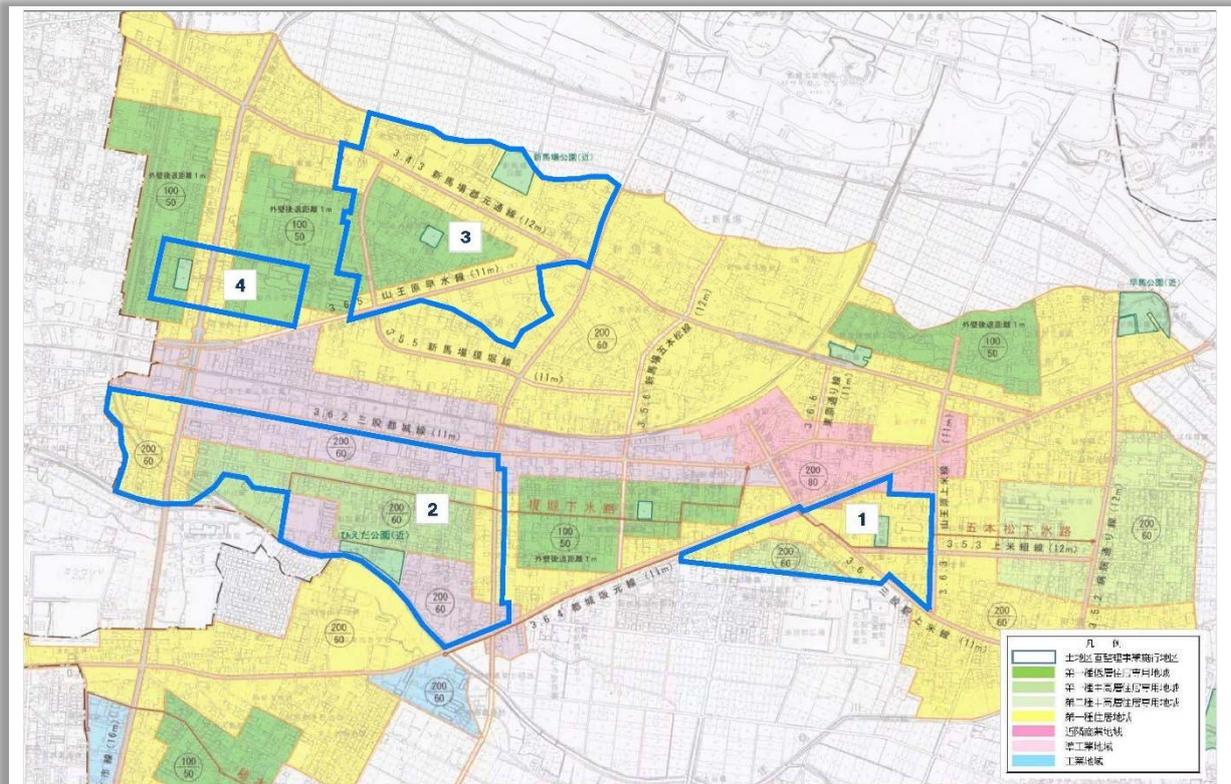


図-1-41 土地区画整理事業施行地区の位置

この内、新馬場地区と稗田地区の土地利用現況を確認すると、非宅地の状況が新馬場地区で全体宅地の26.6%（≒非宅地面積 64,760 m<sup>2</sup>/全宅地面積 243,114 m<sup>2</sup>）、稗田地区で10.5%（≒非宅地面積 31,831 m<sup>2</sup>/全宅地面積 304,330 m<sup>2</sup>）になっています。

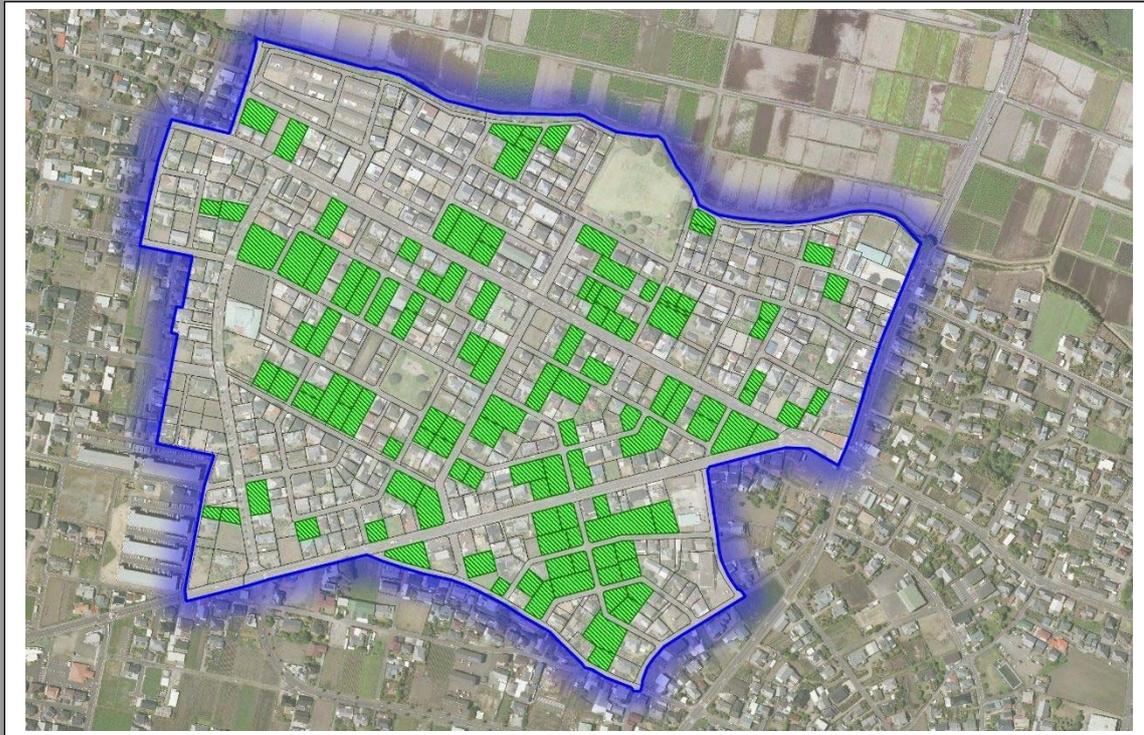


図-1-42 新馬場土地区画整理事業区域の土地利用現況(非宅地を緑色で表示)

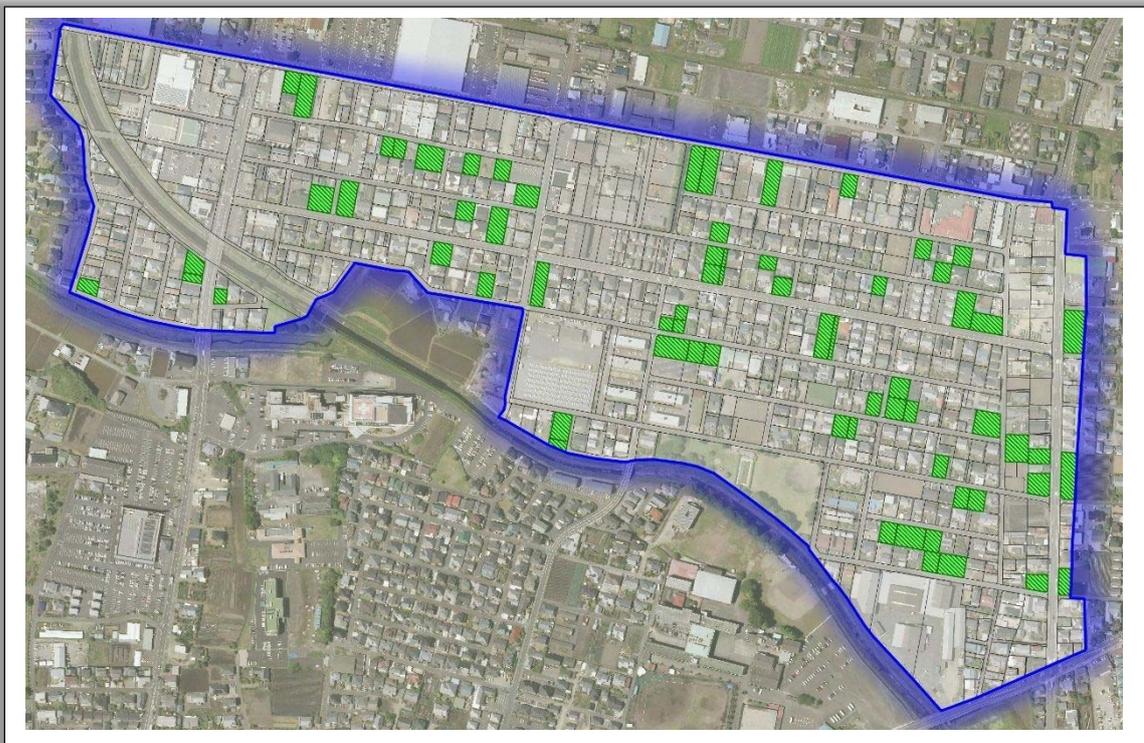


図-1-43 稗田土地区画整理事業区域の土地利用現況(非宅地を緑色で表示)

(2) 都市再生整備計画事業

本町では、市街地を中心としてハード事業・ソフト事業による都市再生整備計画事業（第1期計画：平成20年度～平成23年度、第2期計画：平成24年度～平成28年度）を実施しました。

・第1期計画（平成20年度～平成23年度）

JR三股駅周辺の整備として、産業会館やコミュニティバスの施設整備、駐車場や駐輪場の整備を実施した他、町内に主要施設の誘導板や観光情報の案内板を設置しました。

**大目標：魅力や賑わいにあふれる中心市街地の再構築を図り、「豊かで住みよい活力ある町づくり」を目指す。**

- ・目標1：生活拠点としての中心市街地の賑わいを再生し、町民との協働による活力あるまちづくりを目指す。
- ・目標2：交通結節点としての整備を進めることにより、交通機関のアクセスを充実させ、商工業の振興を図る。

[実施した事業]

- ・産業会館（よかもんや）の建設
- ・JR三股駅前：駐車場と駐輪場の整備
- ・「よかもんや」等への誘導板の設置、町の観光情報に関する情報板の設置
- ・コミュニティバスの施設整備
- ・事業効果分析調査



図-1-44 1期計画の概要

・第2期計画（平成24年度～平成28年度）

JR三股駅前広場や交流施設（ふれあい中央広場、西部地区体育館、上米公園パークゴルフ場）の整備とその活用促進を進めた他、町内の主要スポットに観光情報の案内板を設置しました。

**大目標：魅力や賑わいにあふれる中心市街地の再構築と地域資源の活用を図り、「豊かで住みよい活力あるまちづくり」を目指す。**

- ・目標1：生活拠点としての中心市街地の賑わいを再生し、町民・行政協働によるイベントの企画・運営等が持続する「活力あるまちづくり」を目指す。
- ・目標2：自然、人、もの、もてなしの心が備わった観光地整備を図るとともに、町民交流を推進し町民総参加の「豊かで住みよいまちづくり」を目指す。

[実施した事業]

- ・上米公園パークゴルフ場の整備
- ・ふれあい中央広場の整備
- ・JR三股駅の駅前広場の整備
- ・西部地区体育館の建設
- ・五本松地区の雨水対策事業
- ・事業効果分析調査

・JR三股駅前広場の整備と活用状況



図-1-45 2期計画の概要



3.7 防災の状況

・災害に対する取り組みとして、緊急輸送道路を中心とした道路ネットワークの確保や、防災情報・緊急情報を集約したポータルサイトを作成・運用している。

町内には、災害時の避難・救助をはじめ、物資供給等のために緊急車両の通行を確保すべき路線として、緊急輸送道路に指定されている路線があります（下図-1-46）。

また、災害時に正確な情報を発信することが非常に重要であることから、本町の防災情報・緊急情報を集約したポータルサイトを作成・運用しています。

（三股町防災ポータルサイトアドレス：<http://mimata-saigai.jp/>）

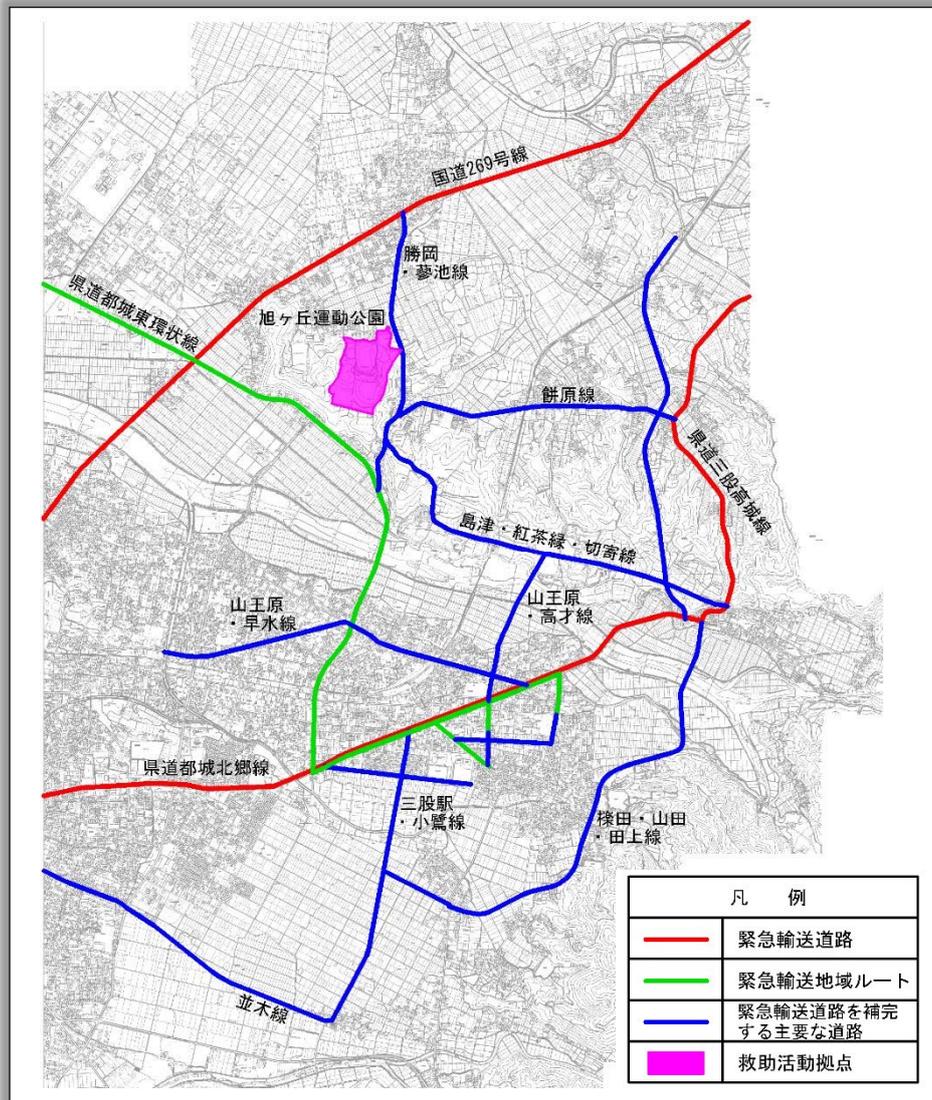


図-1-46 緊急輸送道路位置図

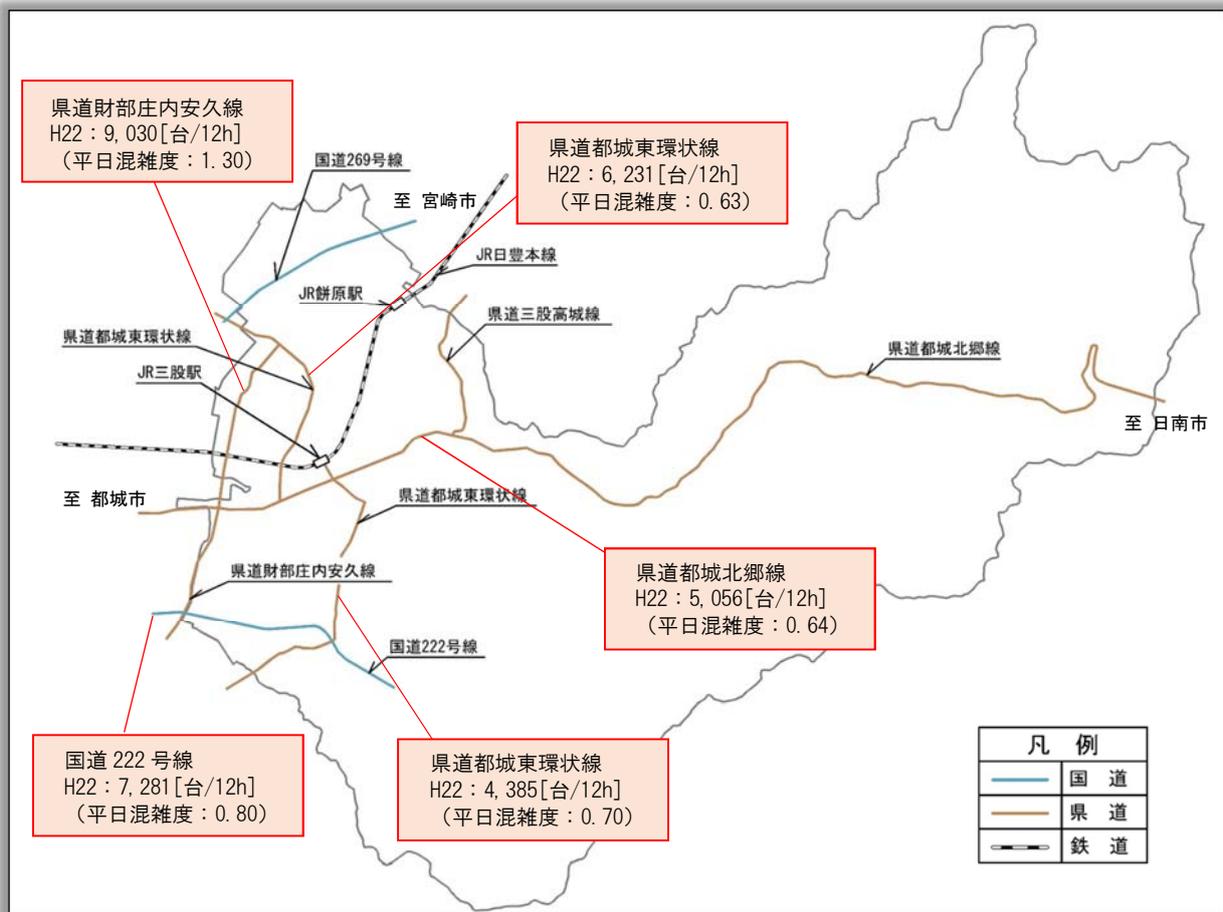
4. 道路交通網

4.1 主要道路・交通網の状況

・町内の幹線道路 4,000～7,000[台/12h]程度の交通量がある。

本町の東西に位置する県道都城北郷線は、都城市・日南市と連絡しており、平成22年の12時間交通量は5,056[台/12h]となっています。また、県道都城東環状線は都城広域都市圏の東環状道路としての機能を有し4,000～7,000[台/12h]程度の交通量があります。

また、町の北西部に位置し、宮崎市と都城市を結ぶ国道269号線（本町付近で9,347[台/12h]）、本町と都城市の境界付近にある県道財部庄内安久線は9,000台程度の交通量があります。



※図内の交通量はH22道路交通センサスより

図-1-47 町内の幹線道路網図



4.2 コミュニティバス

・通学の利用者数は減少傾向にある一方で、生活支援の利用者数は増加傾向にある。

本町では、平成19年度からコミュニティバス（くいまー）を運営しています。コミュニティバスの利用者数を確認すると、通学の利用者数は概ね減少傾向（長田・梶山地域等の生徒数に大きく影響を受ける傾向）にある一方で、生活支援の利用者数は概ね増加傾向にあります。

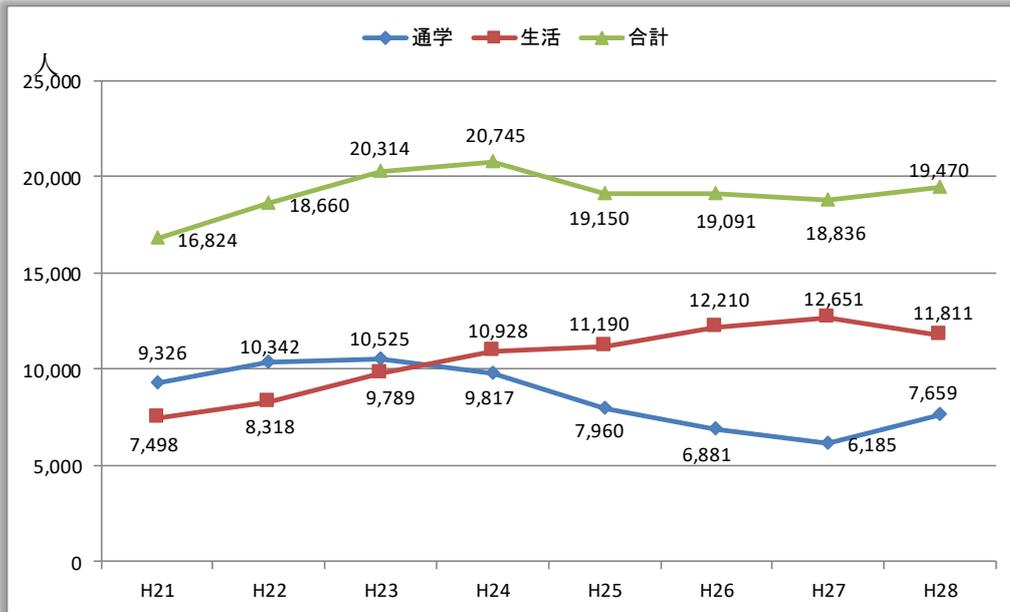


図-1-48 コミュニティバスの利用状況



図-1-49 コミュニティバスの路線図

## 4.3 都市計画道路の整備状況

- ・都市計画道路14路線の内、5路線が未整備区間を有する。
- ・未整備都市計画道路（現道）の交通量は、100～2,000[台/12h]である。

本町の都市計画道路は、14路線が決定されており、9路線が全線改良済み、5路線が未整備区間を有しています。

また、未整備都市計画道路の現道における交通量は（次頁参照）、新馬場五本松線の現道で100～2,000[台/12h]、その他の現道で300[台/12h]未満になっています。

表-1-12 都市計画道路の整備状況

(単位:m, %)

路線名	計画決定		改良済 (m)	改良率 (%)	整備率 (%)	都市計画決定 年月日
	幅員	延長				
3・4・1 宮村小鷹線	16	2,520	2,520	100	100	昭和52年12月6日
3・4・2 安久今市線	16	3,640	3,640	100	100	平成4年12月14日
3・4・3 新馬場郡元通線	12	1,500	1,500	100	100	昭和53年6月9日
3・5・1 新馬場植木線	12	3,470	1,470	42	42	昭和52年12月6日
3・5・2 病院通線	12	1,000	820	82	82	昭和52年12月8日
3・5・3 上米細目線	12	680	680	100	100	昭和52年12月8日
3・5・5 新馬場榎堀線	12	1,230	900	73	73	昭和52年12月8日
3・5・6 新馬場五本松線	12	1,010	110	11	11	昭和52年12月8日
3・6・1 三股駅上米線	11	900	900	100	100	昭和52年12月8日
3・6・2 三股都城線	11	2,370	2,370	100	100	昭和52年12月8日
3・6・3 山王原上米線	11	780	780	100	100	平成1年7月28日
3・6・4 都城坂元線	11	3,790	3,790	100	100	昭和52年12月6日
3・6・5 山王原早水線	11	2,580	2,580	100	100	平成4年12月5日
3・6・6 東原通線	11	130	0	0	0	昭和52年12月8日
合計		25,600	22,060	86	86	

(注) 改良率は計画延長に対する改良済区間の延長

整備率は計画延長に対する改良済区間と概成済区間の延長

出典:宮崎県都市計画基礎調査調査書 都城広域都市計画区域(三股町)

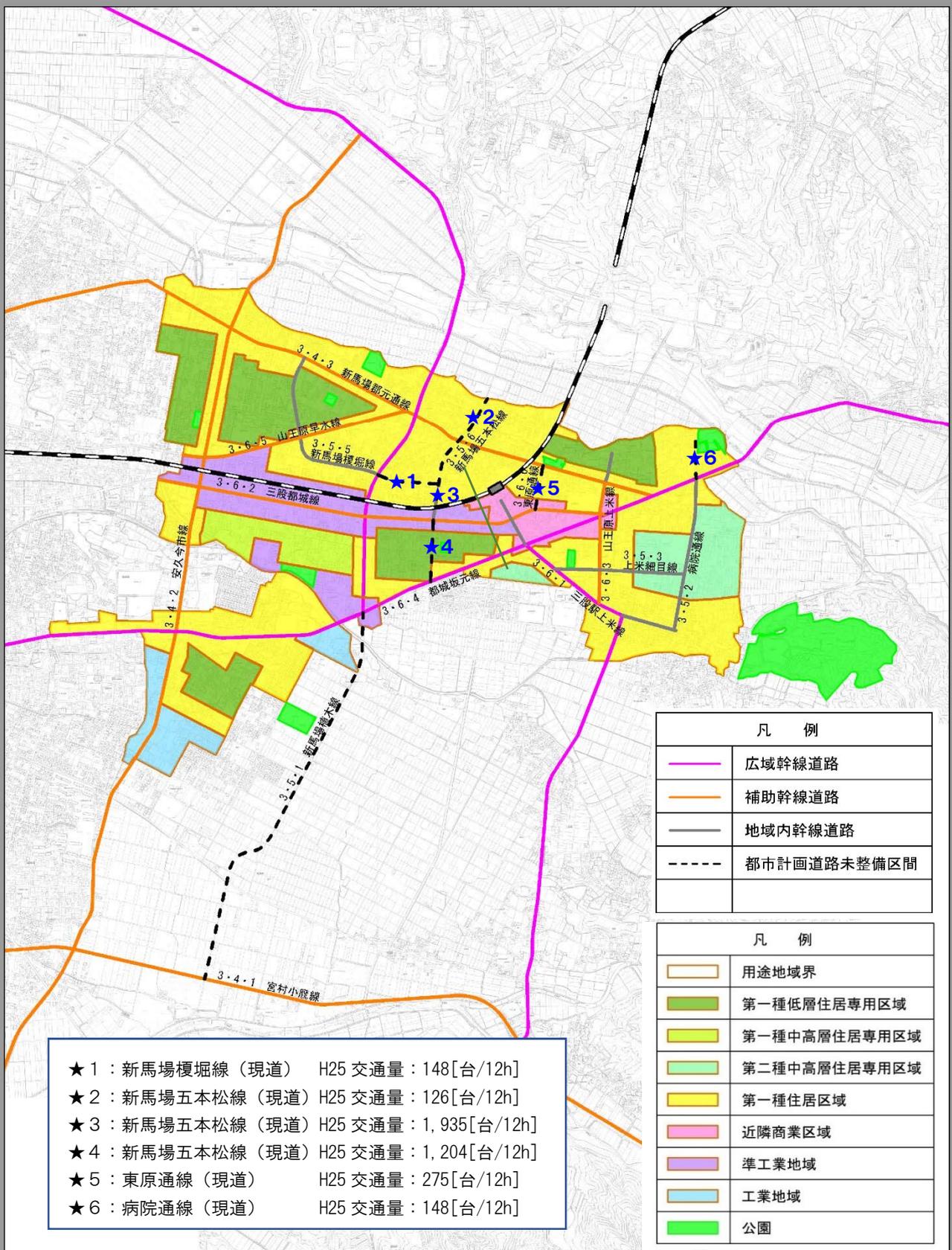


図-1-50 都市計画道路の整備状況

4.4 町道の整備状況

・町道の改良率・舗装率は年々高まっており、改良率は約60%、舗装率は約70%である。

町道については、年々改良率・舗装率が高まっており、平成27年現在では、実延長422,023mに対して、改良率60.35%(254,672m)、舗装率70.36%(296,952m)になっています。

表-1-13 町道の整備状況

単位：m、a、%

年次	実延長 (m)	面積 (a)	改良済		舗装済	
			延長	改良率	延長	舗装率
平成22年	415,893	24,307	242,588	58.30	279,020	67.10
平成23年	415,894	24,350	244,350	58.80	282,186	67.90
平成24年	415,809	24,372	247,006	59.40	284,440	68.40
平成25年	413,360	24,302	249,607	60.38	286,597	69.33
平成26年	422,383	24,768	253,936	60.12	295,708	70.01
平成27年	422,023	24,774	254,672	60.35	296,952	70.36

注：各年4月1日現在

出典：数字で見る三股町

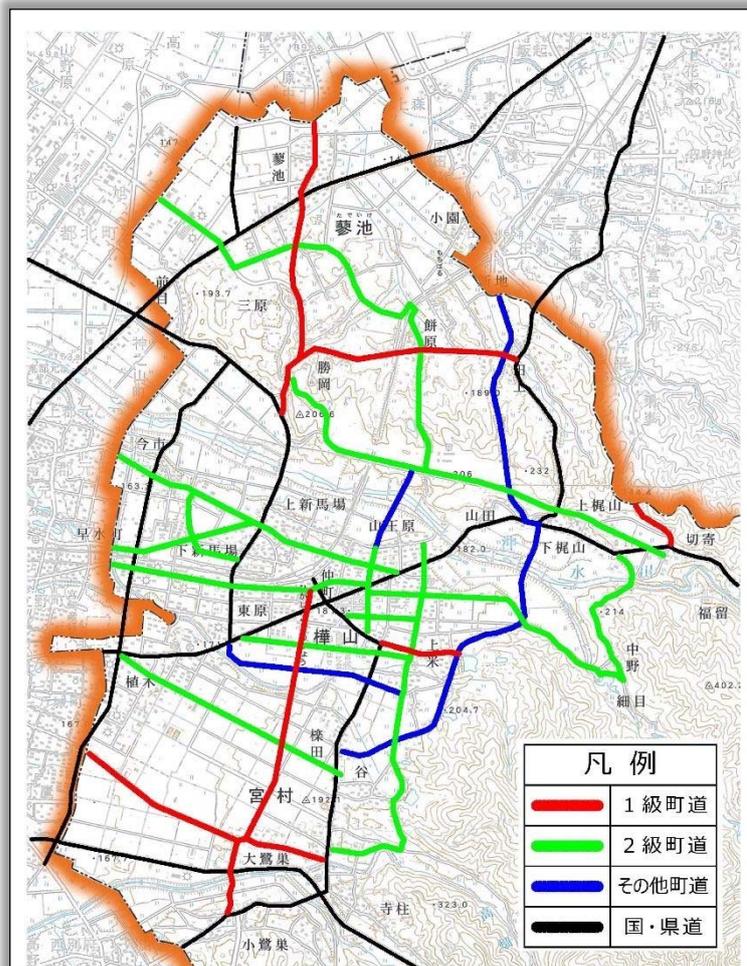


図-1-51 町道道路網



5. 都市施設

5.1 公園緑地

・本町の都市公園は、すべて整備が完了している。  
 (町民1人あたりの公園面積は、約19㎡/人)

本町には都市公園が19箇所あり、すべての公園が整備済みになっています。これを町民1人あたりの面積で計算すると、490,241(㎡)/25,404(人)[H27]=19.3(㎡/人)になります。

表-1-14 都市公園の整備状況

番号	公園名	所在地	面積(ha)	種別
1	旭ヶ丘運動公園	三股町大字蓼池5044-1	15.00	運動公園
2	上米公園	〃 大字榊山115-3	24.30	総合公園
3	早馬公園	〃 大字榊山3993-9	1.10	近隣公園
4	ひえだ公園	〃 稗田33-1	1.00	〃
5	蓼池公園	〃 大字蓼池3540	0.85	〃
6	新馬場公園	〃 新馬場12-1	1.00	〃
7	一町田公園	〃 大字宮村1566	1.02	〃
8	植木公園	〃 大字榊山1831	1.70	〃
9	前目公園	〃 大字蓼池4201-1	0.90	〃
10	塚原児童公園	〃 大字榊山4160	0.52	街区公園
11	宮村児童公園	〃 大字宮村3507	0.40	〃
12	五本松児童公園	〃 五本松9-1	0.34	〃
13	中原児童公園	〃 新馬場30-1	0.25	〃
14	榎堀児童公園	〃 大字榊山4534-1	0.20	〃
15	花見原児童公園	〃 花見原4-2	0.25	〃
16	五本松小公園	〃 五本松17-1	0.0824	〃
17	植木小公園1号	〃 大字榊山1852-41	0.0414	〃
18	植木小公園2号	〃 大字榊山1870-13	0.0410	〃
19	植木小公園3号	〃 大字榊山1877-18	0.0293	〃
合 計			49.0241	

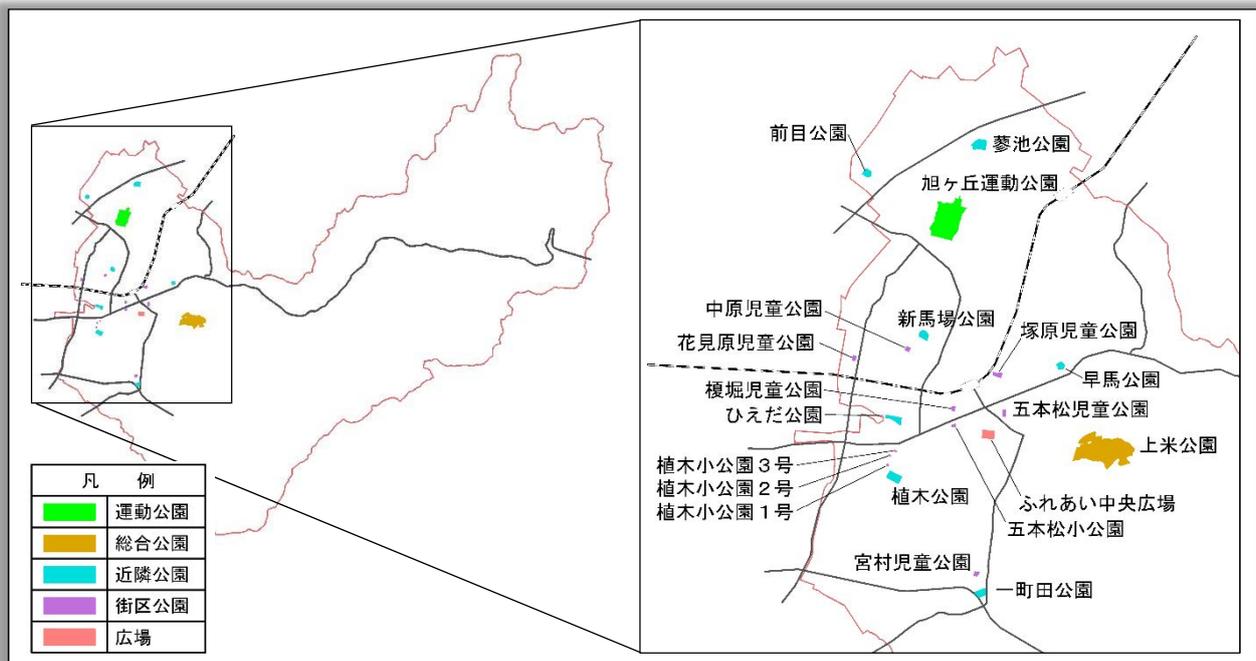


図-1-52 都市公園の位置図

またその他として、町内には以下の公園があります。

表-1-15 その他の公園の整備状況

番号	公園名	所在地	面積(ha)	種別
1	椎八重公園	三股町大字長田5515-1	3.8500	一般公園
2	長田峡公園	〃 大字長田6610-1	0.1300	〃
3	矢ヶ淵公園	〃 大字長田3012	0.5621	〃
4	古堀公園	〃 大字樺山1924-157	0.1341	〃
5	西五本松小公園	〃 大字樺山3276-11	0.0148	〃
6	もみの木小公園	〃 大字樺山3314-7	0.0559	〃
7	稗田小公園	〃 稗田62-1	0.0785	〃
8	都三小公園	〃 稗田57-3	0.0399	〃
9	中原小公園	〃 大字樺山5036-85	0.0900	〃
10	植木小公園4号	〃 大字宮村2918-7	0.0265	〃
11	植木小公園5号	〃 大字宮村3006-16	0.0133	〃
12	植木小公園6号	〃 大字樺山1923-30	0.0093	〃
13	植木小公園7号	〃 大字宮村3034-61	0.0616	〃
14	植木小公園8号	〃 大字宮村2789-30	0.0454	〃
15	植木南小公園	〃 大字宮村2785-5	0.0333	〃
16	蓼池小公園1号	〃 大字蓼池3717-9	0.0153	〃
17	蓼池小公園2号	〃 大字蓼池3850-18	0.0136	〃
18	蓼池小公園3号	〃 大字蓼池3720-10	0.0109	〃
19	三本松小公園	〃 大字蓼池3528-15	0.0109	〃
20	やまと小公園	〃 大字宮村2918-49	0.0182	〃
21	大鷺巣小公園	〃 大字宮村1878-17	0.0112	〃
22	眺霧台小公園	〃 大字宮村1201-22	0.0282	〃
23	稻荷児童遊園	〃 大字樺山3993	0.0380	児童遊園
24	今市児童遊園	〃 大字蓼池605-1	0.1529	〃
25	櫟田児童遊園	〃 大字樺山1355-1	0.1424	〃
26	小鷺巣児童遊園	〃 大字宮村344-1	0.1760	〃
27	下新児童遊園	〃 大字樺山4388-1	0.1059	〃
28	谷児童遊園	〃 大字樺山2620	0.1212	〃
29	三股町ふれあい中央広場	〃 大字樺山3993	1.4034	その他の広場

5.2 下水道

・公共下水道事業（污水）と公共下水道（雨水）の排水区域は約502ha、都市下水路排水面積は約124haとなっている。

本町の公共下水道事業（污水）は、公共下水道、農業集落排水で整備が進められています。

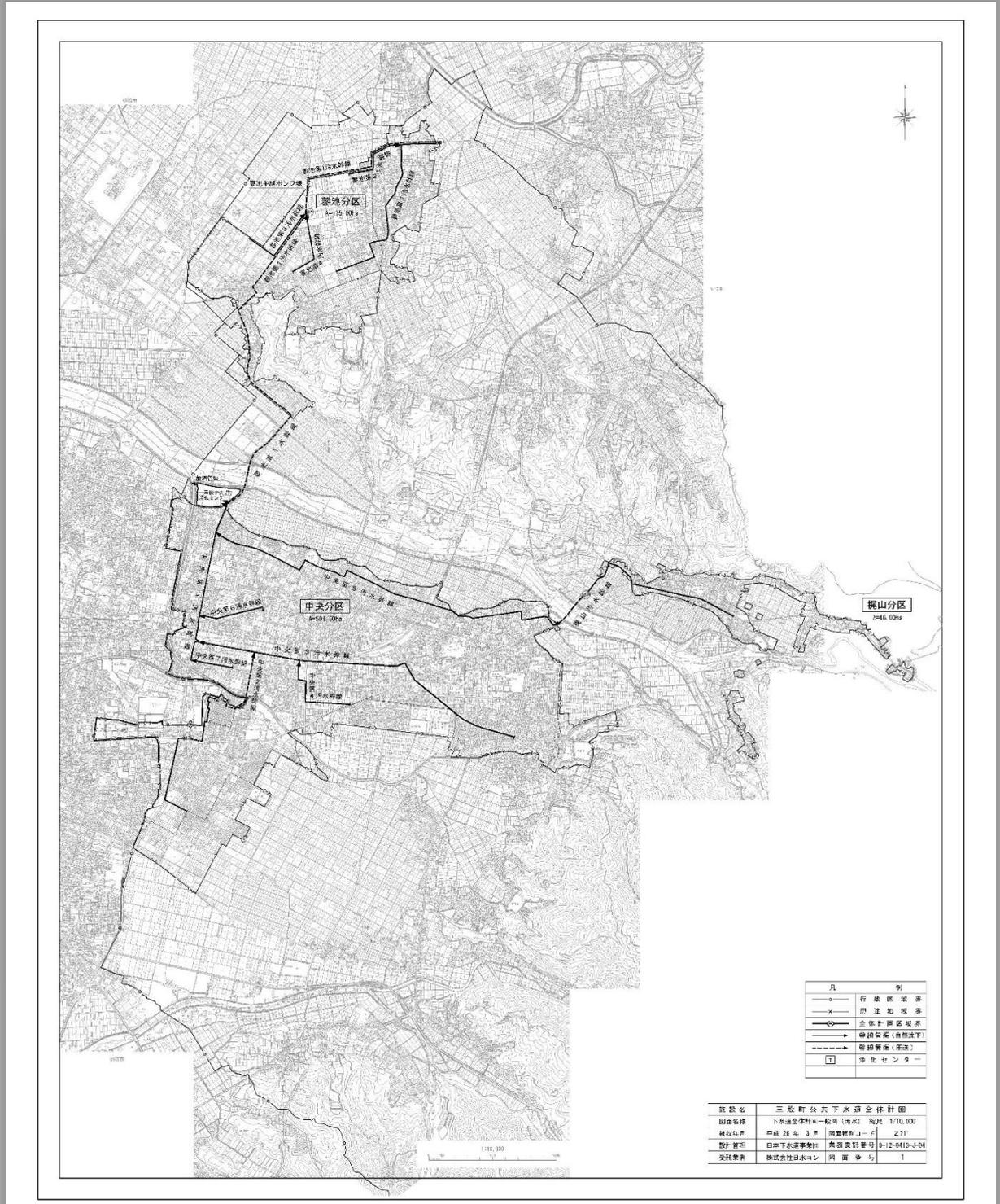


図-1-53 公共下水道の全体計画図

平成26年には、樺山地域の一部の下水道区域を見直したことで、公共下水道の排水区域が約564ha  
→約502haになっています。

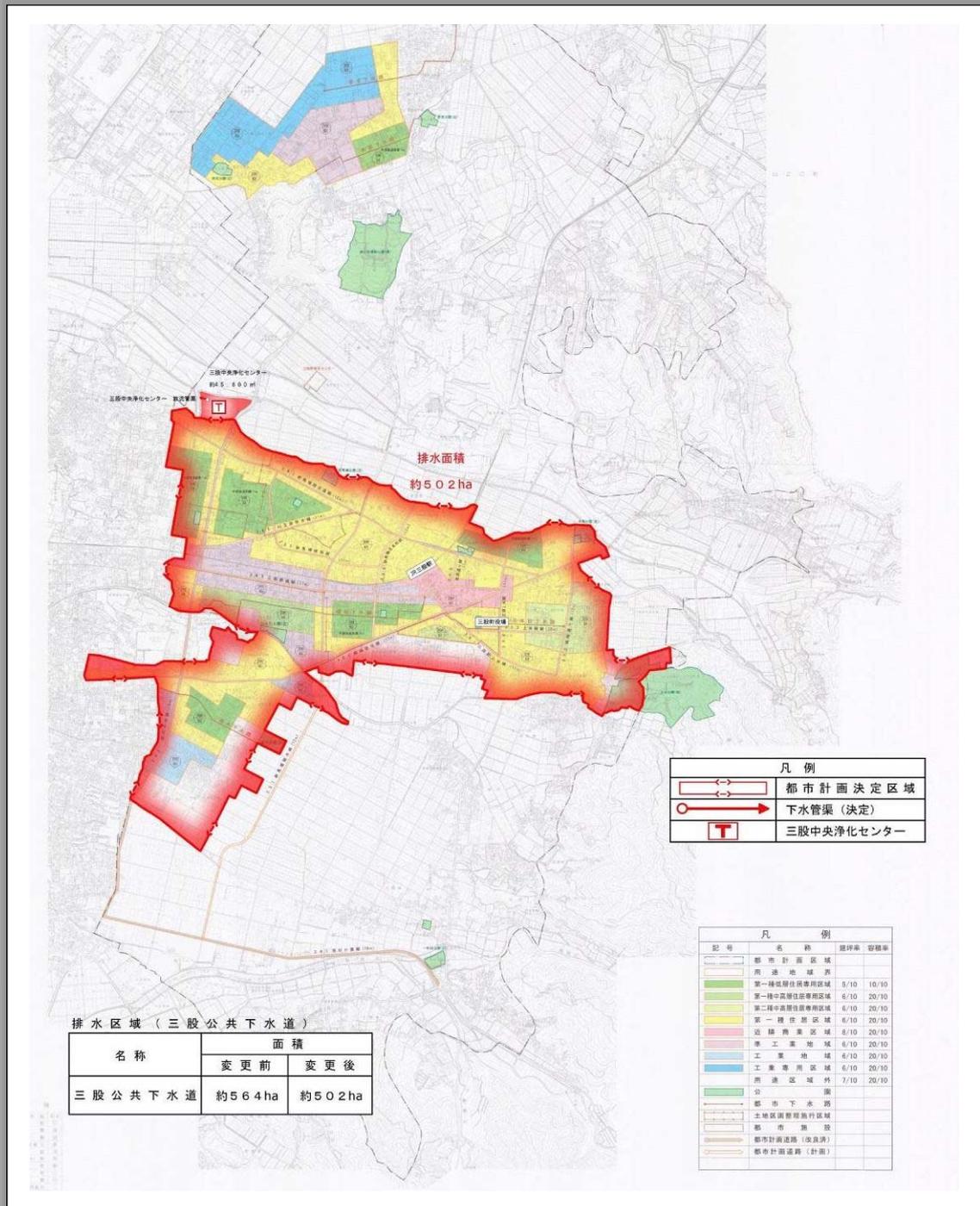


図-1-54 公共下水道(汚水)の排水面積

# 第1章 三股町の現況

また公共下水道（雨水）は約 502ha、都市下水路排水面積は約 124ha になっています。

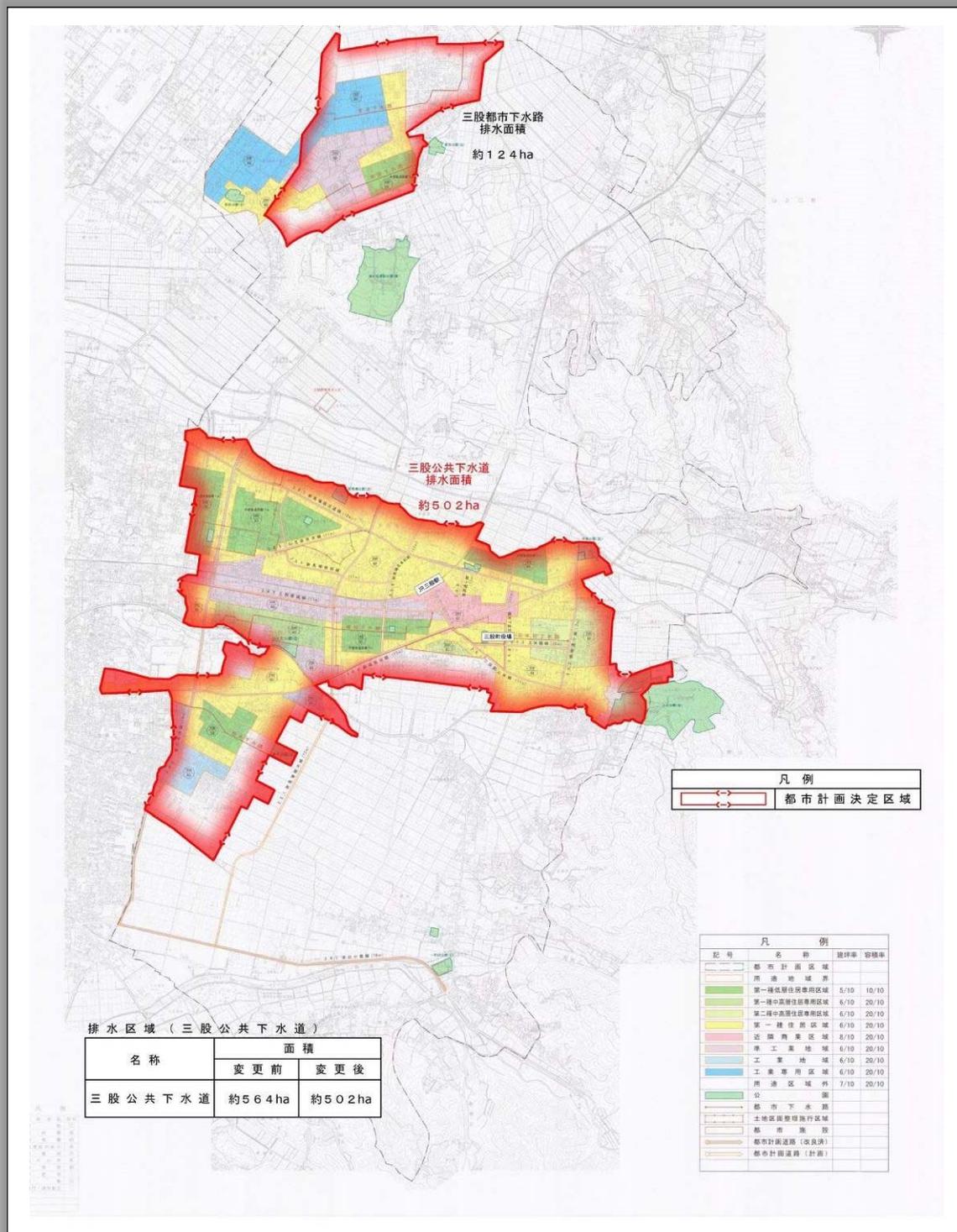


図-1-55 公共下水道（雨水）と都市下水路の排水面積

### 5.3 公営住宅

・建て替えや住戸改善などに取り組んでいるものの、建て替えや用途廃止が不可欠な「簡易耐火平屋住宅」も管理している状況にある。

本町は全体で756戸の公営住宅を管理しており、近年では中原第3団地や塚原第2団地の建て替え、今市団地・天神原団地での住戸改善などに取り組んできました。

一方、管理している公営住宅の中には、耐用年数を大幅に経過している「簡易耐火平屋住宅」もあり、今後これらは建て替えや用途廃止が不可欠な状況にあります。

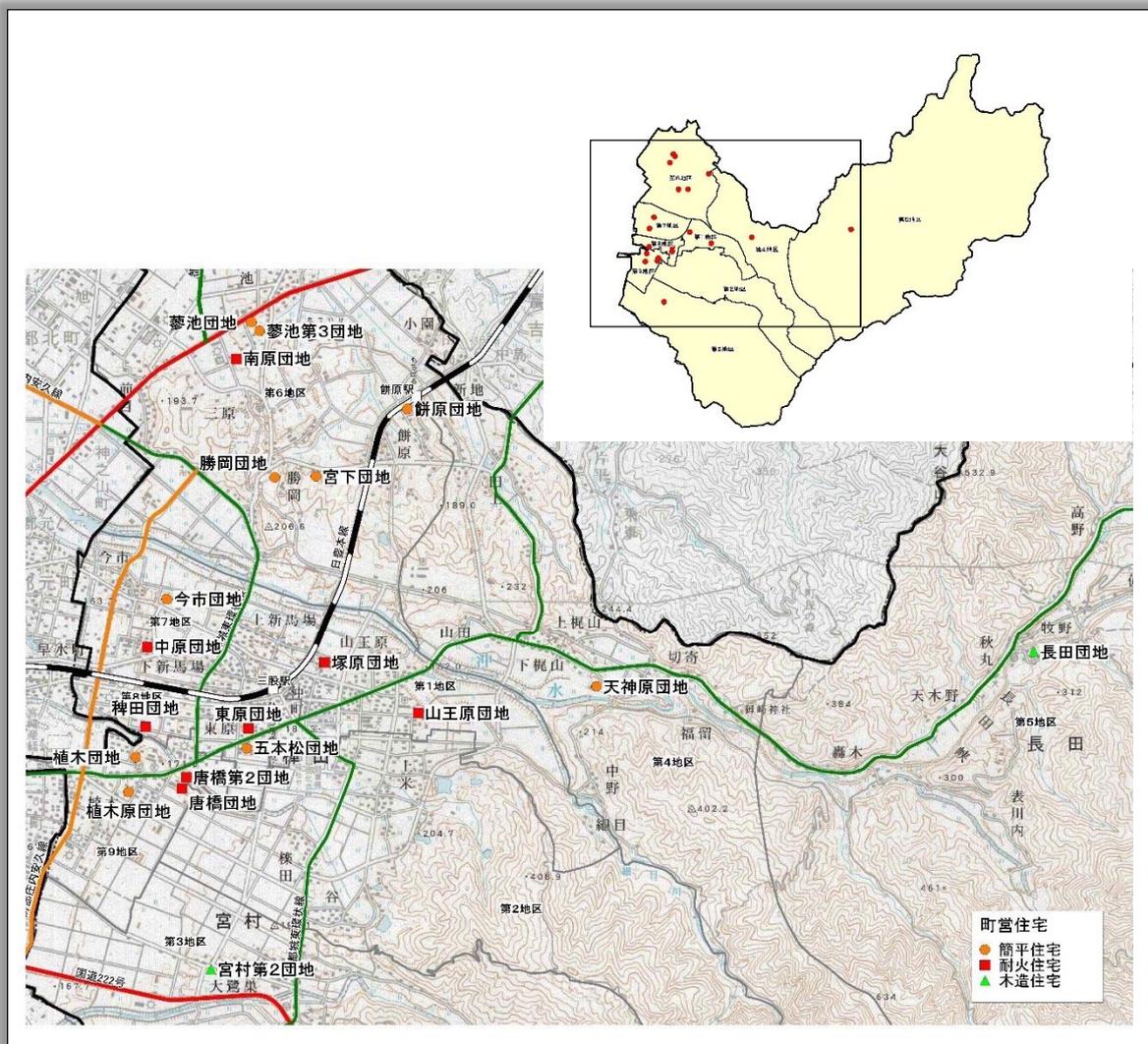


図-1-56 公営住宅の位置

第1章 三股町の現況

表-1-16 公営住宅の一覧表

No.	団地名	地区	所在地	建設年度	西暦	構造	経過年数	階数	棟数	戸数	床面積 (㎡/戸)	敷地面積 (㎡)	備考
1	東原団地	第8地区	樺山	H 29	2017	耐火	-	3	1	20	44.7	3,866.0	
										15	58.7		
				H 30	2018	耐火	-	3	1	20	44.7		3,777.0
										15	58.7		
2	蓼池団地	第6地区	蓼池	S 39	1964	簡平	52	1	1	4	32.6	599.8	
3	植木団地	第9地区	樺山	S 40	1965	簡平	51	1	2	6	31.5	1,500.8	
				S 41	1966	簡平	50	1	1	4	31.5		
4	植木原団地	第9地区	樺山	S 41	1966	簡平	50	1	1	4	31.5	655.0	
5	餅原団地	第6地区	餅原	S 42	1967	簡平	49	1	2	6	31.5	3,516.0	
				S 43	1968	簡平	48	1	4	13	31.5		
6	蓼池第3団地	第6地区	蓼池	S 42	1967	簡平	49	1	4	18	31.5	1,982.0	
7	勝岡団地	第6地区	餅原	S 42	1967	簡平	49	1	6	20	36.4	4,264.0	
8	天神原団地	第4地区	長田	S 43	1968	簡平	48	1	6	20	36.4	4,301.2	
9	宮下団地	第6地区	餅原	S 43	1968	簡平	48	1	7	22	31.5	7,872.0	
10	五本松団地	第8地区	樺山	S 46	1971	簡平	45	1	9	28	36.4	21,371.7	
				S 46	1971	簡平	45	1	6	20	33.2		
				S 47	1972	簡平	44	1	18	60	38.5		
				S 47	1972	簡平	44	1	8	26	33.8		
11	今市団地	第7地区	今市	S 48	1973	簡平	43	1	3	10	36.6	7,679.8	
				S 49	1974	簡平	42	1	2	4	42.5		
				S 49	1974	簡平	42	1	2	6	44.5		
				S 50	1975	簡平	41	1	1	4	43.3		
				S 50	1975	簡平	41	1	4	16	46.6		
12	稗田団地	第8地区	稗田	S 51	1976	耐火	40	3	2	24	52.8	6,605.6	
				S 52	1977	耐火	39	3	3	36	58.5		
13	唐橋団地	第9地区	樺山	S 53	1978	耐火	38	3	2	24	58.5	2,987.4	
14	山王原団地	第1地区	樺山	S 54	1979	耐火	37	3	2	30	58.5	4,890.0	
				S 55	1980	耐火	36	3	1	12	64.6		
15	南原団地	第6地区	蓼池	S 56	1981	耐火	35	3	1	12	64.6	2,333.7	
				S 57	1982	耐火	34	3	1	12	64.6		
16	唐橋第2団地	第9地区	樺山	S 58	1983	耐火	33	4	1	16	60.8	5,731.1	
				S 59	1984	耐火	32	4	1	16	62.7		
				S 60	1985	耐火	31	4	1	16	62.7		
17	長田団地	第5地区	長田	S 61	1986	木造	30	1	5	10	61.1	4,099.7	
				H 1	1989	木造	27	1	1	2	61.1		
18	宮村第2団地	第3地区	宮村	S 63	1988	木造	28	1	7	10	61.1	3,806.2	
				H 2	1990	木造	26	1	1	2	61.1		
19	中原団地	第7地区	樺山	H 17	2005	耐火	11	3	2	18	43.9	12,879.6	
										24	58.3		
										12	73.7		
				H 18	2006	耐火	10	3	1	9	43.9		
										6	58.3		
										12	73.7		
				H 20	2008	耐火	8	2	2	12	43.9		
										8	58.3		
20	塚原団地	第1地区	樺山	H 23	2011	耐火	5	3	1	29	43.6	8,149.2	
										9	56.9		
				H 24	2012	耐火	4	3	1	8	43.6		
										33	56.9		
総計									125	779			

※東原団地(建設中)を含む

5.4 その他（児童福祉施設等の状況）

- ・認可保育所の建て替えは完了している。
- ・児童館については老朽化が進んでいる。

認可保育所については平成27年度までに全施設の建て替えが終了していますが、最初に建て替えた施設は30年が経過しており、新たな計画が必要となっています。

長田地域において、町立長田へき地保育所を平成29年3月で閉所しましたが、社会福祉法人が長田小学校敷地内に同年4月に保育所分園を開所しています。

児童館については老朽化が進んでおり、長寿命化計画に基づいた統廃合や整備を検討する必要があります。放課後児童クラブ事業は児童館等を利用して実施していますが、事業の運営を含め、実施場所等について、今後の検討課題となっています。

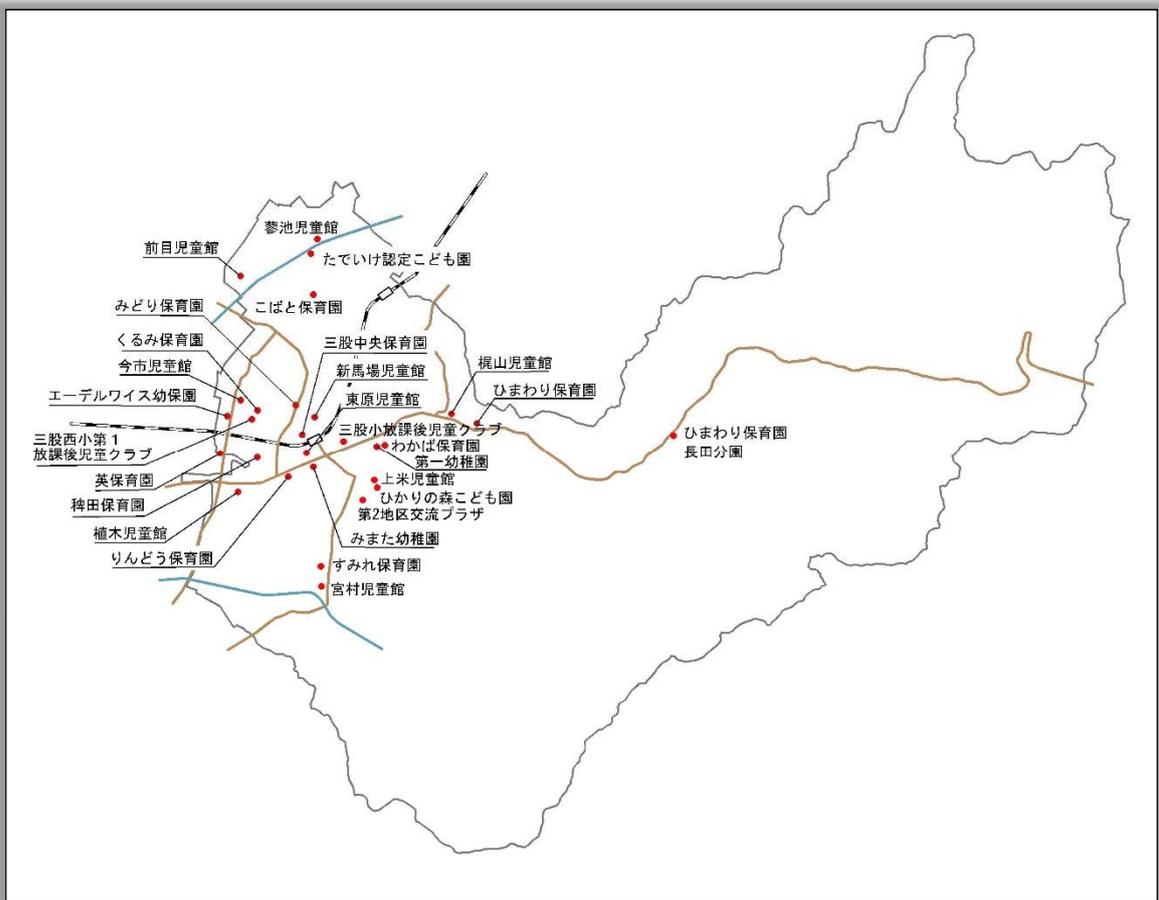


図-1-57 児童福祉施設等の位置

## 6. 町民のニーズ

### (1) 三股町総合計画策定にあたっての町民アンケートの概要

第五次三股町総合計画（後期基本計画）の策定にあたって、町民のまちづくりに対するニーズ等を把握するアンケート調査を、平成26年8月に実施しています。本都市計画マスタープランでは、この町民ニーズを把握・反映した内容とします。

#### ・調査対象者と調査方法

町内に居住する20歳以上の町民から無作為にサンプリング対象として抽出し、郵送による配布・回収を行っています。

#### ・回収結果

配布数2,000通に対して、回収数は618通（回収率30.9%）です。

#### ・回答者の性別・年齢

回答者618人の性別は、男性48.5%、女性50.8%、不明が0.6%です。

また年齢構成は、下図のようになっており、概ね各年代から回収できています。

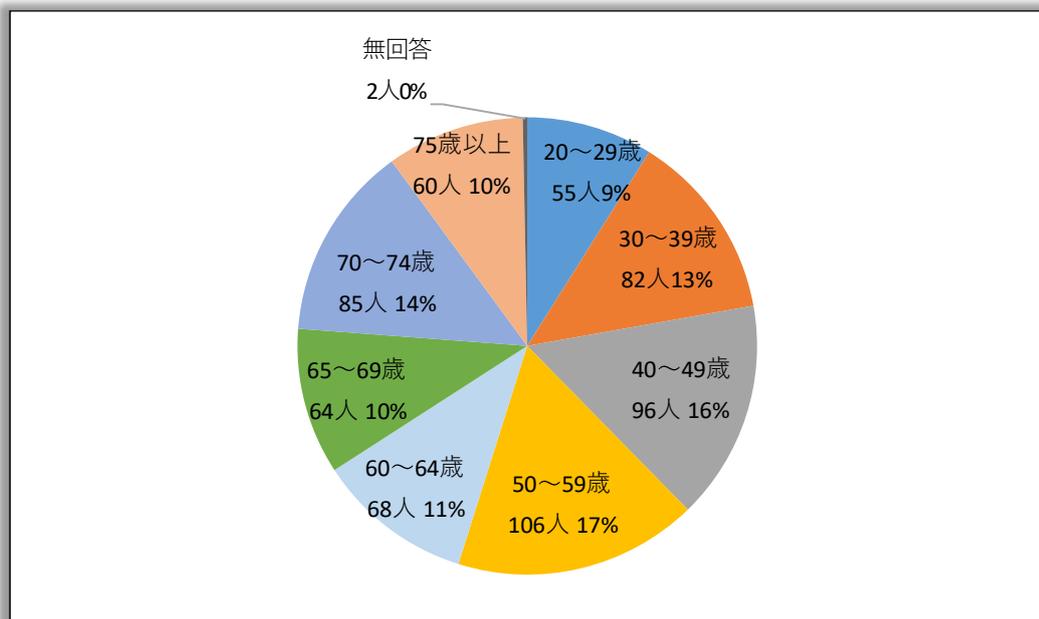


図-1-58 回答者の年齢構成

(2) 町民アンケート結果（町全体）

・三股町は住み良いか？

『三股町の住みやすさ』についてお聞きしたところ「住み良い」が53.1%と半数を占め、「まあまあ住み良い」が34.1%、「どちらとも言えない」が7.4%、「あまり住み良いとは言えない」が3.2%という結果になりました（無回答2.1%）。

・住み良いと感じる理由

前項の「三股町は住み良い」・「まあまあ住み良い」と回答した539名に、住み良いと感じる理由を聞いたところ、「自然環境がよい」が54.9%で最も多く、次いで「自然災害が少ない」（41.0%）、「買い物に便利」（35.8%）が多い結果になっています。

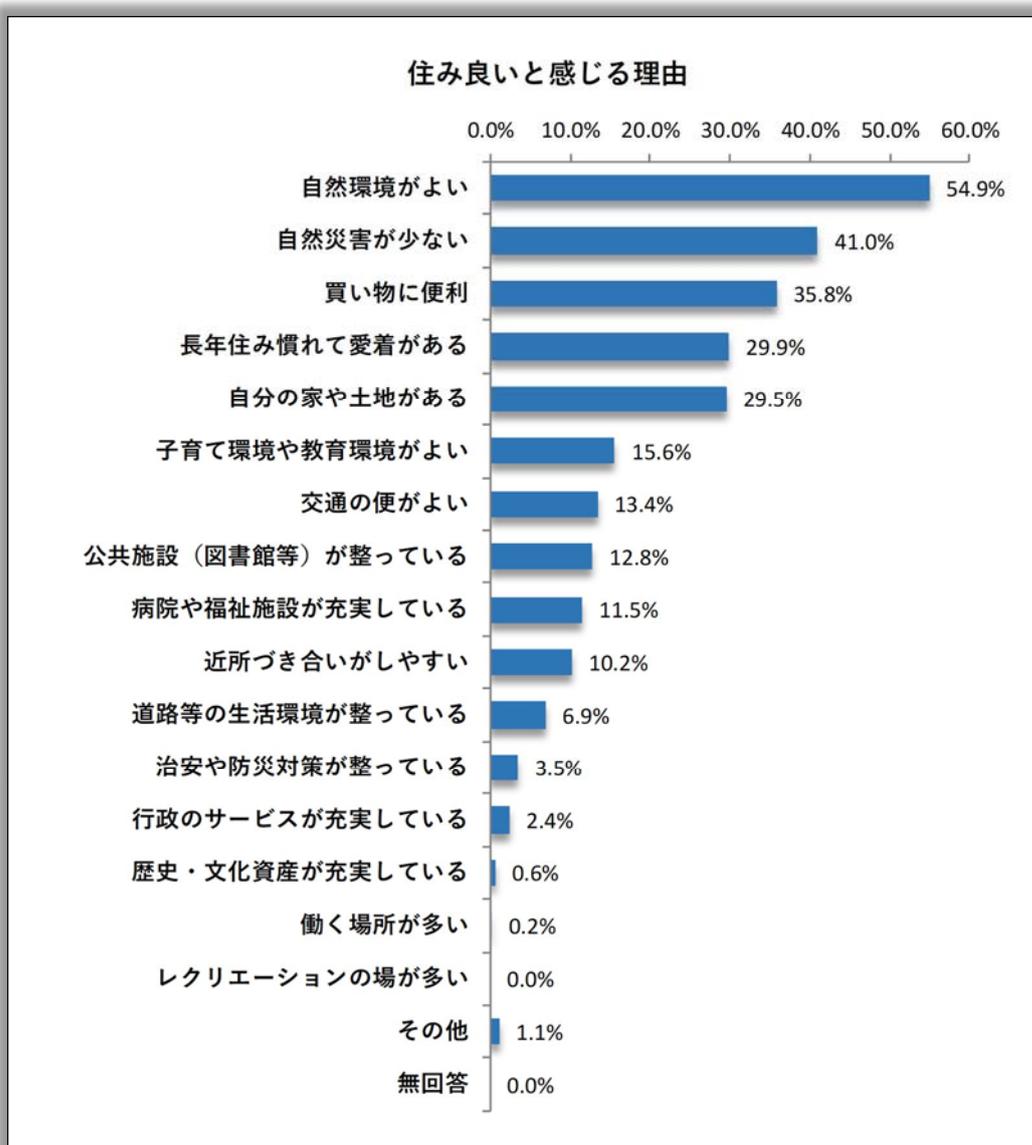


図-1-59 住み良いと感じる理由

・定住意向

定住意向については、回答者の62.0%が「ずっと住み続けたい」と回答する結果になっています。

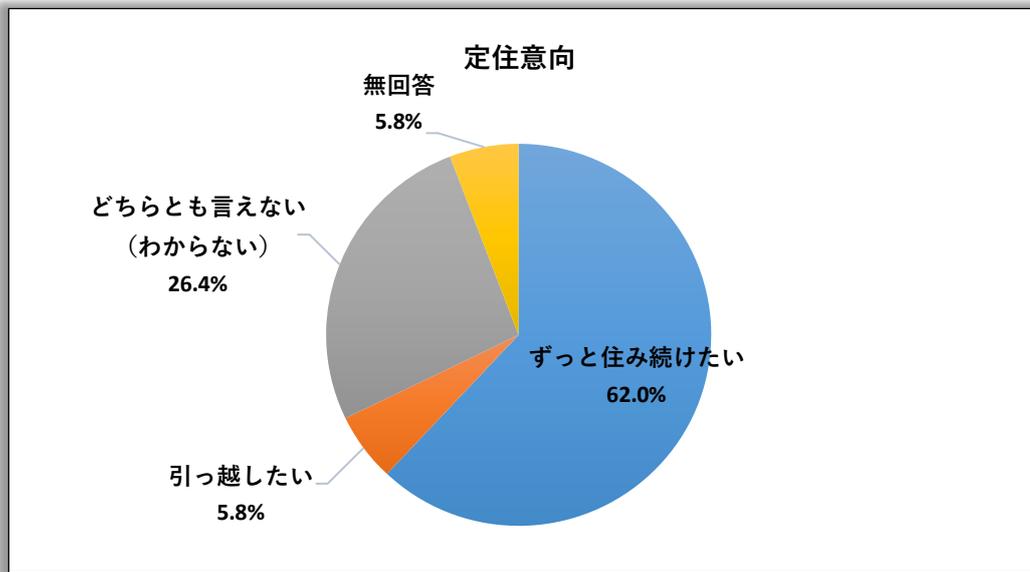


図-1-60 定住意向

定住意向の回答を年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」という回答は40歳以上の全ての年齢層で過半数を超え、年齢が高くなる程、その割合も増加する傾向にあります。一方、20代および30代は「ずっと住み続けたい」という回答者が過半数以下であり、「どちらとも言えない(わからない)」と回答した人の割合が、他の年齢層よりも高くなっています。

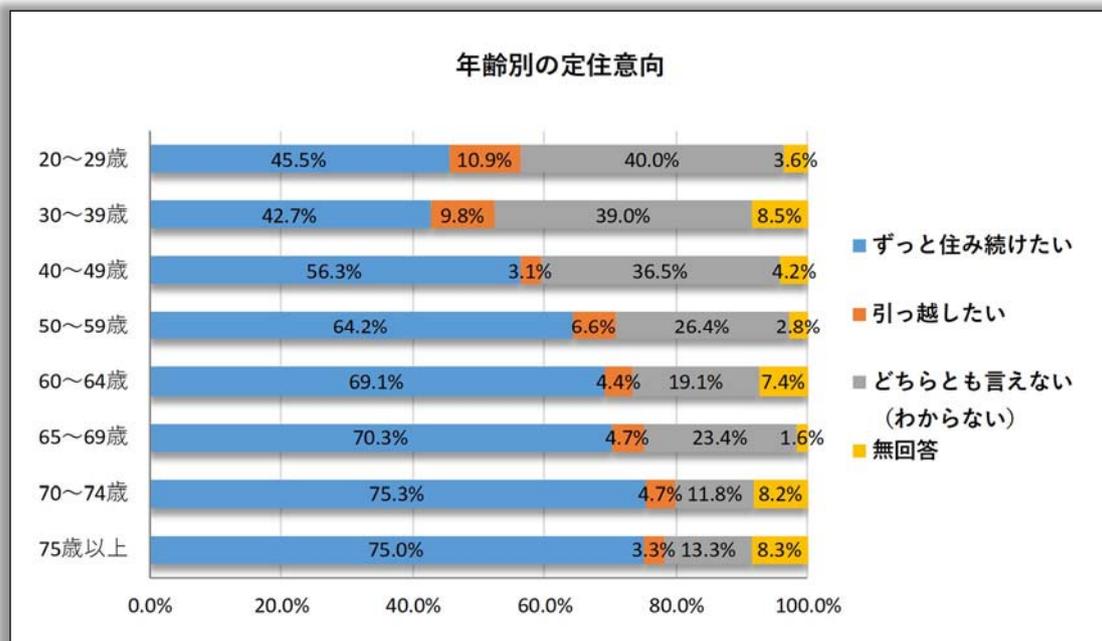
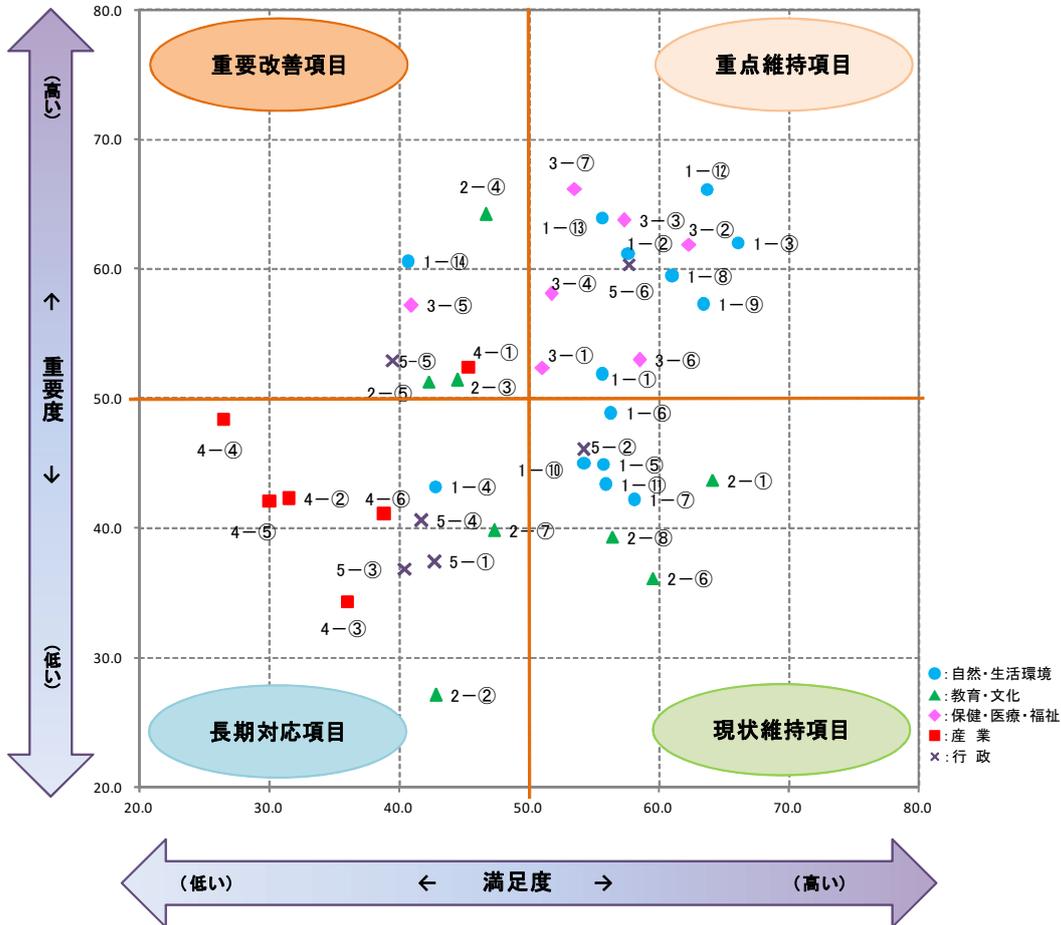


図-1-61 年齢別の定住意向

・町政に対する満足度と重要度

町政に関わる41項目について、重要度と満足度を回答してもらいました。その結果、町民が考える最重要改善項目は「2-④学校教育」であり、その他「1-⑭公害」、「3-⑤社会保障」、「5-⑤財政運営」、「4-①農業」等も重要改善項目として挙げられています。



●全地区の各取組項目における満足度及び重要度の評価点の偏差値

取組項目			満足度	重要度	取組項目			満足度	重要度
1 自然・生活環境 ●	①自然環境		55.6	51.9	3 医療・福祉 ◆	①地域福祉	51.0	52.4	
	②水環境		57.6	61.2		②子育て支援	62.3	61.9	
	③循環型社会		66.1	62.0		③高齢者福祉	57.3	63.8	
	④土地利用		42.8	43.2		④障がい者福祉	51.7	58.1	
	⑤住宅・宅地		55.7	44.9		⑤社会保障	40.9	57.2	
	⑥道路		56.3	48.9		⑥健康づくり	58.5	53.0	
	⑦公共交通		58.1	42.2		⑦医療	53.5	66.2	
	⑧上水道		61.0	59.5	4 産業 ■	①農業	45.3	52.4	
	⑨下水道・し尿処理		63.4	57.3		②林業	31.5	42.3	
	⑩公園緑地		54.2	45.0		③水産業	36.0	34.3	
	⑪情報通信		55.9	43.4		④商業	26.5	48.4	
	⑫防災・消防・救急		63.7	66.1		⑤工業	30.0	42.1	
	⑬防犯・交通安全		55.6	63.9		⑥観光	38.8	41.1	
	⑭公害		40.7	60.6	5 行政 ×	①町民主体のまちづくり	42.7	37.4	
2 教育・文化 ▲	①生涯学習		64.1	43.7		②町民への情報提供	54.2	46.1	
	②国際理解教育		42.8	27.1		③男女共同参画	40.4	36.8	
	③青少年教育		44.5	51.4		④行政改革	41.7	40.6	
	④学校教育		46.7	64.2		⑤財政運営	39.5	52.9	
	⑤家庭教育		42.3	51.3		⑥広域行政	57.7	60.3	
	⑥芸術・文化活動		59.5	36.1					
	⑦文化財の保護・伝統文化の継承		47.3	39.8					
	⑧生涯スポーツ		56.4	39.3					

※各取組項目の色付けは、上図の4つの領域に対応した色で行っています。



・三股町の将来イメージ

三股町が将来どのようなまちにあってほしいかという設問に対しては、最も多い回答が「高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち」で36.7%、次いで「自然と共生する花と緑と水のまち」(35.4%)、「災害に強く安心して暮らせるまち」(34.6%)となっています。

下記の結果から読み取れる大切なキーワードとして、「高齢者等の福祉」、「自然との共生」、「災害に強いまち」、「子育て」、「治安」が挙げられます。

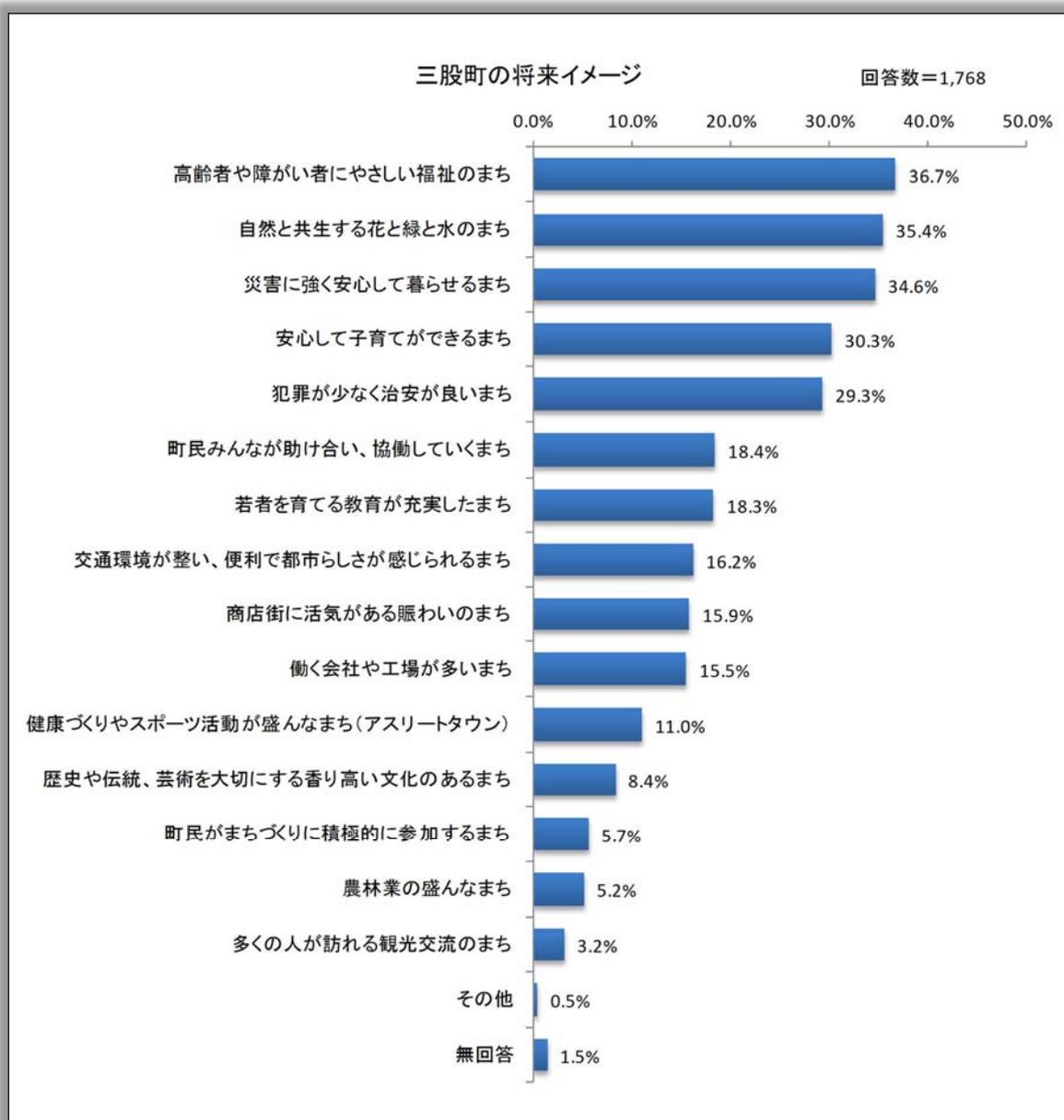


図-1-62 三股町の将来イメージ

・行財政運営における重点的な配慮事項

総合計画アンケートでは、行財政運営において今後特に重点をおく必要があることも聞いています。その結果「職員の定員や総人件費の適正化」で39.5%、次いで「町が行っている事務や事業の見直し（廃止・統合・削減など）」（33.8%）となっています。

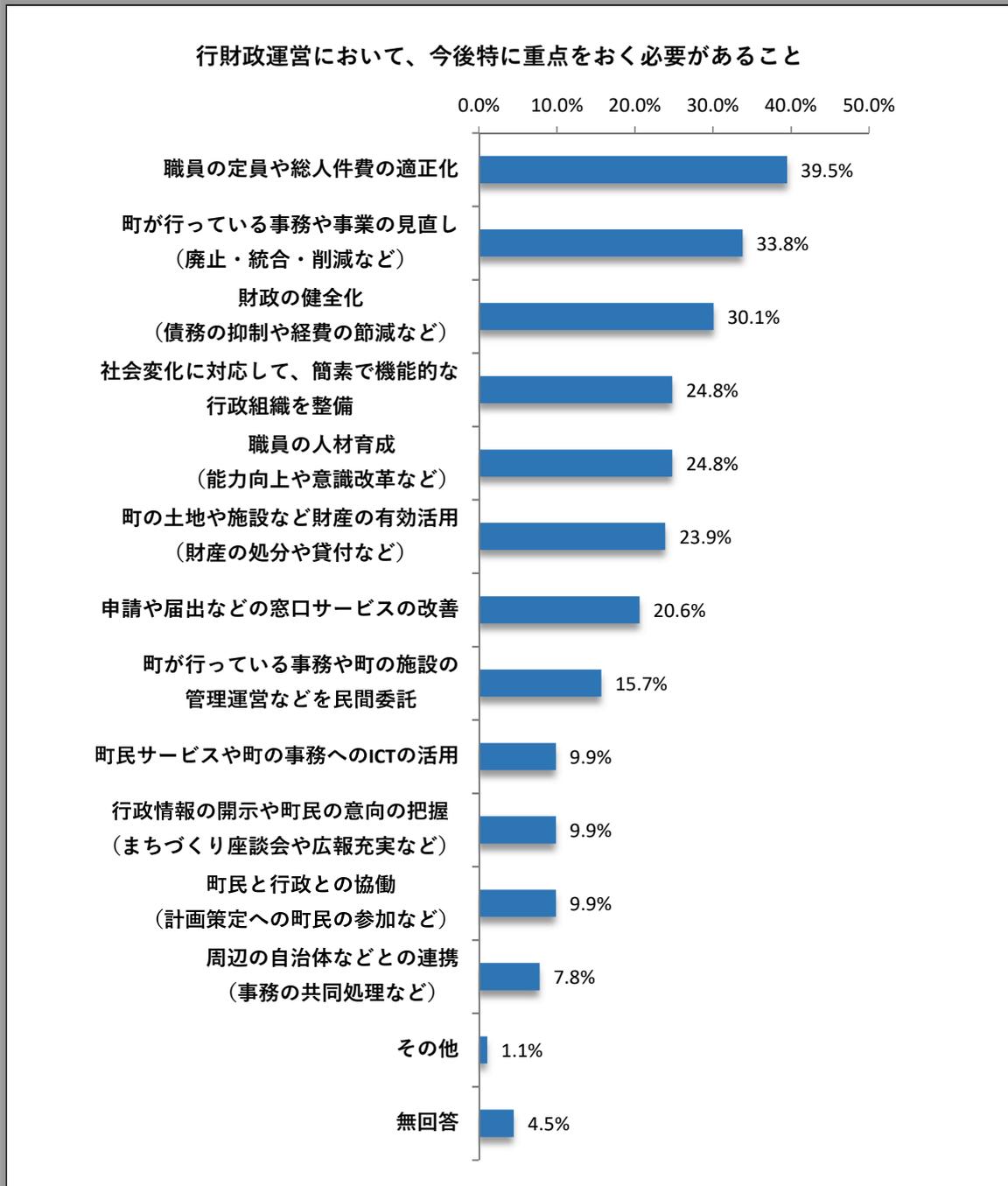


図-1-63 行財政運営における重要事項

(3) 町民アンケート結果（地区別）

・地区の将来イメージ

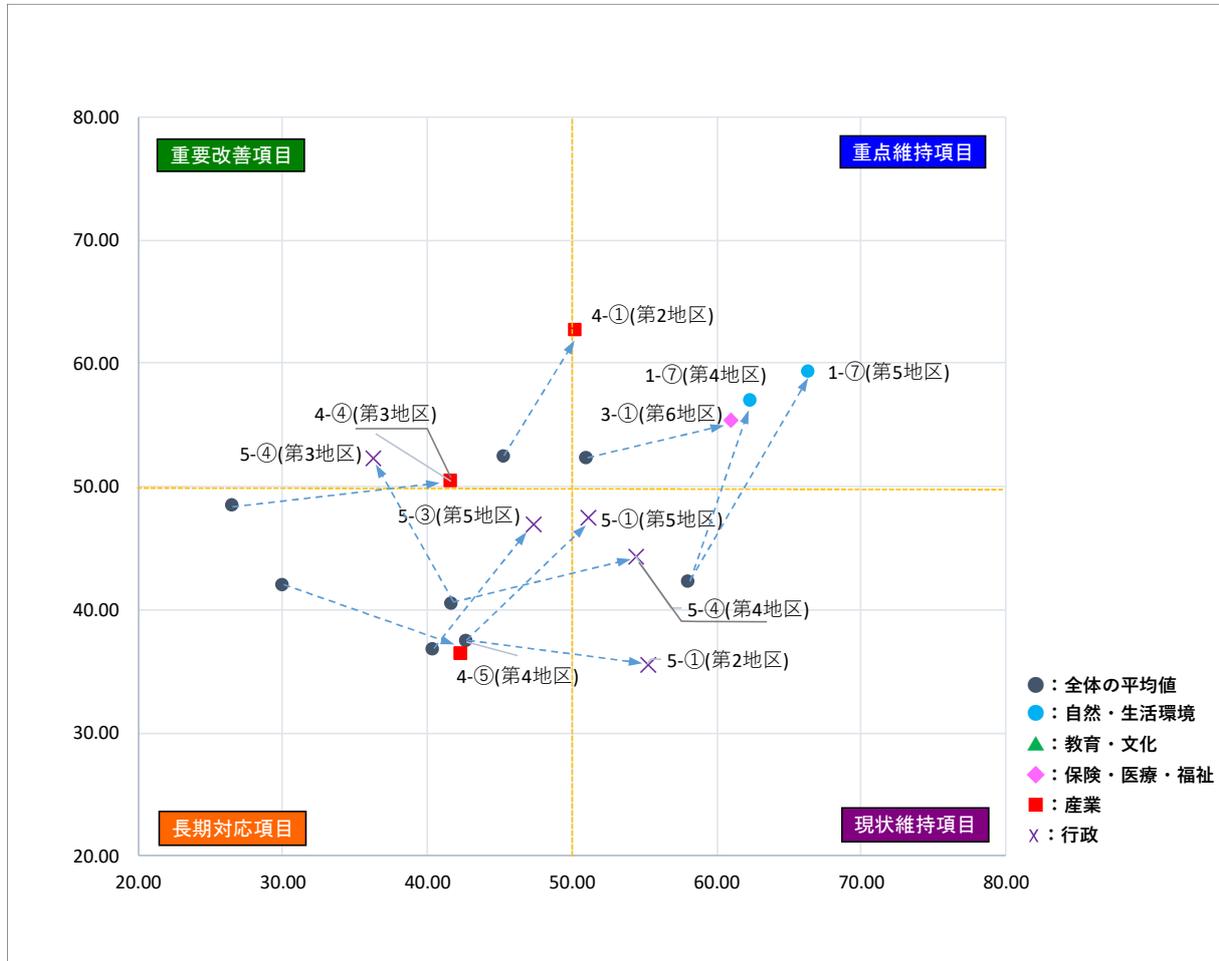
地区別に意見が多かった将来イメージを整理すると、それぞれ「自然と共生する花と緑と水のまち」、「安心して子育てができるまち」、「災害に強く安心して暮らせるまち」、「高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち」の意見が多い結果になりました。

地区	将来のイメージで最も多かった回答
第1地区	自然と共生する花と緑と水のまち
第2地区	安心して子育てができるまち
第3地区	災害に強く安心して暮らせるまち 高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち
第4地区	災害に強く安心して暮らせるまち
第5地区	自然と共生する花と緑と水のまち
第6地区	高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち
第7地区	自然と共生する花と緑と水のまち
第8地区	災害に強く安心して暮らせるまち 高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち
第9地区	高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち



・町政に対する満足度と重要度（地区別のプラス項目）

前述の「町政に対する満足度と重要度」を地区別に集計し、全体平均よりも満足度・重要度が高かった項目を以下に示します。重要度に注目すると、特に第4地区と第5地区で「1-⑦公共交通」の重要度が高いことが確認でき、これらの項目は満足度も高い結果になっています。



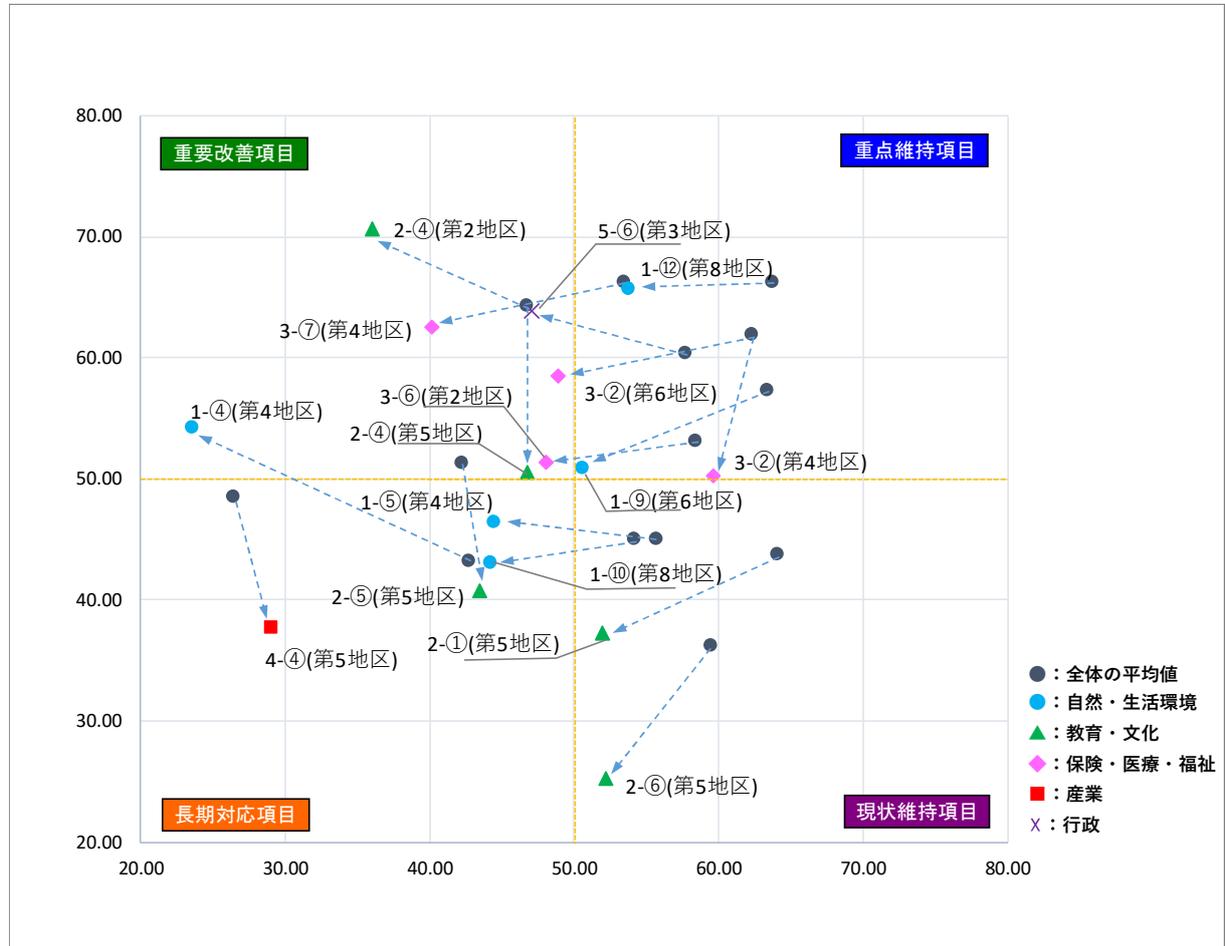
取組項目	全体平均		地区平均		地区平均-全体平均		
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	
1	⑦公共交通(第5地区)	58.1	42.2	66.3	59.4	8.2	17.2
	⑦公共交通(第4地区)	58.1	42.2	62.3	57.1	4.2	14.9
3	①地域福祉(第6地区)	51.0	52.4	61.0	55.4	10.0	3.0
4	①農業(第2地区)	45.3	52.4	50.3	62.7	5.0	10.3
	④商業(第3地区)	26.5	48.4	41.7	50.5	15.2	2.1
	⑤工業(第4地区)	30.0	42.1	42.4	36.4	12.4	-5.7
5	①町民主体のまちづくり(第5地区)	42.7	37.4	51.1	47.5	8.4	10.1
	①町民主体のまちづくり(第2地区)	42.7	37.4	55.2	35.6	12.5	-1.8
	③男女共同参画(第5地区)	40.4	36.8	47.3	47.0	6.9	10.2
	④行政改革(第3地区)	41.7	40.6	36.2	52.4	-5.5	11.8
	④行政改革(第4地区)	41.7	40.6	54.4	44.4	12.7	3.8



第1章 三股町の現況

・町政に対する満足度と重要度（地区別のマイナス項目）

全体平均よりも満足度・重要度が低い項目を確認すると、重要度が高く満足度が低い項目として、第4地区で「1-④土地利用」と「1-⑤住宅・宅地」、第2地区で「2-④学校教育」、第3地区で「5-⑥広域行政」が挙げられました。



取組項目		全体平均		地区平均		地区平均-全体平均	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
1	④土地利用(第4地区)	42.8	43.2	23.5	54.3	-19.3	11.1
	⑤住宅・宅地(第4地区)	55.7	44.9	44.4	46.5	-11.3	1.6
	⑨下水道・し尿処理(第6地区)	63.4	57.3	50.5	50.9	-12.9	-6.4
	⑩公園緑地(第8地区)	54.2	45.0	44.2	43.2	-10.0	-1.8
	⑫防災・消防・救急(第8地区)	63.7	66.1	53.7	65.8	-10.0	-0.3
2	①生涯学習(第5地区)	64.1	43.7	52.0	37.3	-12.1	-6.4
	④学校教育(第2地区)	46.7	64.2	36.0	70.7	-10.7	6.5
	④学校教育(第5地区)	46.7	64.2	46.8	50.5	0.1	-13.7
	⑤家庭教育(第5地区)	42.3	51.3	43.5	40.8	1.2	-10.5
	⑥芸術・文化活動(第5地区)	59.5	36.1	52.2	25.3	-7.3	-10.8
3	②子育て支援(第4地区)	62.3	61.9	59.6	50.3	-2.7	-11.6
	②子育て支援(第6地区)	62.3	61.9	48.9	58.5	-13.4	-3.4
	⑥健康づくり(第2地区)	58.5	53.0	48.1	51.4	-10.4	-1.6
4	⑦医療(第4地区)	53.5	66.2	40.2	62.6	-13.3	-3.6
4	④商業(第5地区)	26.5	48.4	29.0	37.7	2.5	-10.7
5	⑥広域行政(第3地区)	57.7	60.3	47.0	64.0	-10.7	3.7